

# 原子力施設環境放射線調査報告書 データ集(案)

(令和3年度第1四半期報)

青 森 県

# 目 次

[原子燃料サイクル施設]

1. 青森県実施分測定結果	3
(1) 空間放射線量率測定結果	4
① モニタリングステーションによる空間放射線量率(NaI)測定結果	4
(参考)モニタリングステーションによる空間放射線量率(電離箱)測定結果	5
② モニタリングポストによる空間放射線量率(NaI)測定結果	6
③ モニタリングカーによる空間放射線量率(NaI)測定結果	7
(2) 積算線量測定結果(RPLD)	8
(3) 大気浮遊じん中の全 $\alpha$ 及び全 $\beta$ 放射能測定結果	9
(4) 大気中の気体状 $\beta$ 放射能測定結果(クリプトン-85換算)	10
(5) 大気中のヨウ素-131測定結果	11
(6) 環境試料中の放射能測定結果	12
(7) 大気中の水蒸気状トリチウム測定結果	14
(8) 大気中の気体状フッ素測定結果	15
(9) 環境試料中のフッ素測定結果	15
(10) 気象観測結果	16
① 風速・気温・湿度・降水量・積雪深	16
② 大気安定度出現頻度表	17
③ 風配図	18
2. 事業者実施分測定結果	19
(1) 空間放射線量率測定結果	20
① モニタリングステーションによる空間放射線量率(NaI)測定結果	20
(参考)モニタリングステーションによる空間放射線量率(電離箱)測定結果	21
(2) 積算線量測定結果(RPLD)	22
(3) 大気浮遊じん中の全 $\alpha$ 及び全 $\beta$ 放射能測定結果	23
(4) 大気中の気体状 $\beta$ 放射能測定結果(クリプトン-85換算)	24
(5) 大気中のヨウ素-131測定結果	25
(6) 環境試料中の放射能測定結果	26
(7) 大気中の水蒸気状トリチウム測定結果	28
(8) 大気中の気体状フッ素測定結果	29
(9) 環境試料中のフッ素測定結果	30
(10) 気象観測結果	31
① 風速・気温・湿度・降水量・積雪深	31
② 大気安定度出現頻度表	32
③ 風配図	33

3. 参考図表	35
(1) 河底土中の放射能濃度の推移	36
(2) 湖底土中の放射能濃度の推移	36
(3) 表土中の放射能濃度の推移	37
(4) 海底土中の放射能濃度の推移	38

[東通原子力発電所]

1. 青森県実施分測定結果	41
(1) 空間放射線量率測定結果	42
① モニタリングステーションによる空間放射線量率(NaI)測定結果	42
② モニタリングポストによる空間放射線量率(NaI)測定結果	43
(2) 積算線量測定結果(RPLD)	44
(3) 大気浮遊じん中の全 $\beta$ 放射能測定結果	45
(4) 大気中のヨウ素-131測定結果	45
(5) 環境試料中の放射能測定結果	46
(6) 気象観測結果	48
① 風速・気温・湿度・降水量・積雪深	48
② 大気安定度出現頻度表	50
③ 風配図	51
2. 事業者実施分測定結果	53
(1) 空間放射線量率測定結果	54
① モニタリングポストによる空間放射線量率(NaI)測定結果	54
(2) 積算線量測定結果(RPLD)	55
(3) 環境試料中の放射能測定結果	56
(4) 気象観測結果	58
① 降水量・積雪深	58
3. 参考図表	59
(1) 大気浮遊じん中の全 $\alpha$ 放射能濃度及び全 $\beta$ 放射能濃度の相関	60
(2) 表土中の放射能濃度の推移	61
(3) 海底土中の放射能濃度の推移	61

[リサイクル燃料備蓄センター]

1. 青森県実施分測定結果	65
(1) 空間放射線量率測定結果	66
① モニタリングポストによる空間放射線量率 (NaI) 測定結果	66
(参考) モニタリングポストによる空間放射線量率 (電離箱) 測定結果	66
(2) 積算線量測定結果 (RPLD)	67
(3) 環境試料中の放射能測定結果	67
(4) 気象観測結果	67
① 降水量・積雪深	67
2. 事業者実施分測定結果	69
(1) 空間放射線量率測定結果	70
① モニタリングポストによる空間放射線量率 (NaI) 測定結果	70
(参考) モニタリングポストによる空間放射線量率 (電離箱) 測定結果	70
(2) 積算線量測定結果 (RPLD)	71
(3) 環境試料中の放射能測定結果	71
(4) 気象観測結果	71
① 降水量・積雪深	71
3. 参考図表	73
(1) 表土中の放射能濃度の推移	74

[周辺監視区域内測定結果]

原子燃料サイクル施設	76
1. モニタリングポスト測定結果	77
(1) 再処理事業所モニタリングポスト測定結果	77
(2) 濃縮・埋設事業所モニタリングポスト測定結果	79
2. 再処理工場の液体廃棄物の放出量測定結果	8
3. 再処理工場の気体廃棄物の放出量測定結果	81
4. 気象観測結果	83
東通原子力発電所	85
1. モニタリングポスト測定結果	86
2. 排気筒モニタ測定結果	87
3. 放水口モニタ測定結果	87
4. 気象観測結果	88

## 記号の解説

「ND」

定量下限値未満を示す。分析室等で実施する環境試料中放射性核種の分析測定については、測定条件や精度を一定の水準に保つため、試料・核種ごとに定量下限値を定めている。

「\*」

検出限界以下を示す。モニタリングステーションにおいて自動的に採取・測定している大気浮遊じん中の全アルファ及び全ベータ放射能については、測定条件(採取空気量等)が変動するため、測定値が計数誤差の3倍以下の場合を検出限界以下としている。

「-」

モニタリング対象外を示す。

「△」

今四半期分析対象外を示す。

## 核種等の記号及び名称

$^3\text{H}$ , H-3	: トリチウム	$^{144}\text{Ce}$ , Ce-144	: セリウム-144
$^7\text{Be}$ , Be-7	: ベリリウム-7	$^{154}\text{Eu}$ , Eu-154	: ユロピウム-154
$^{14}\text{C}$ , C-14	: 炭素-14	$^{214}\text{Bi}$ , Bi-214	: ビスマス-214
$^{40}\text{K}$ , K-40	: カリウム-40	$^{228}\text{Ac}$ , Ac-228	: アクチニウム-228
$^{51}\text{Cr}$ , Cr-51	: クロム-51	U	: ウラン
$^{54}\text{Mn}$ , Mn-54	: マンガン-54	$^{234}\text{U}$ , U-234	: ウラン-234
$^{59}\text{Fe}$ , Fe-59	: 鉄-59	$^{235}\text{U}$ , U-235	: ウラン-235
$^{58}\text{Co}$ , Co-58	: コバルト-58	$^{238}\text{U}$ , U-238	: ウラン-238
$^{60}\text{Co}$ , Co-60	: コバルト-60	$^{238}\text{Pu}$ , Pu-238	: プルトニウム-238
$^{65}\text{Zn}$ , Zn-65	: 亜鉛-65	$^{239+240}\text{Pu}$ , Pu-239+240	: プルトニウム-239+240
$^{85}\text{Kr}$ , Kr-85	: クリプトン-85	$^{241}\text{Pu}$ , Pu-241	: プルトニウム-241
$^{90}\text{Sr}$ , Sr-90	: スロンチウム-90	$^{241}\text{Am}$ , Am-241	: アメリシウム-241
$^{95}\text{Zr}$ , Zr-95	: ジルコニウム-95	$^{244}\text{Cm}$ , Cm-244	: キュリウム-244
$^{95}\text{Nb}$ , Nb-95	: ニオブ-95		
$^{103}\text{Ru}$ , Ru-103	: ルテニウム-103	Pu( $\alpha$ )	: アルファ線を放出する プルトニウム
$^{106}\text{Ru}$ , Ru-106	: ルテニウム-106	Am( $\alpha$ )	: アルファ線を放出する アメリシウム
$^{125}\text{Sb}$ , Sb-125	: アンチモン-125	Cm( $\alpha$ )	: アルファ線を放出する キュリウム
$^{129}\text{I}$ , I-129	: ヨウ素-129		
$^{131}\text{I}$ , I-131	: ヨウ素-131		
$^{134}\text{Cs}$ , Cs-134	: セシウム-134		
$^{137}\text{Cs}$ , Cs-137	: セシウム-137		
$^{140}\text{Ba}$ , Ba-140	: バリウム-140		
$^{140}\text{La}$ , La-140	: ランタン-140		
		F	: フッ素



# 原子燃料サイクル施設





## 1. 青森県実施分測定結果

# (1)空間放射線量率測定結果

①モニタリングステーションによる空間放射線量率(NaI)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	平常の変動幅を外れた時間数 (単位:時間)	平常の変動幅を外れた原因と時間数 (単位:時間)		平常の変動幅	過去の測定値の範囲	過去の同一四半期の測定値の範囲	備考
							施設起因	降雨等				
尾駸	4月	23	44	21	2.6	3	0	3	7~37 (22±15)	8~88	20~57 (23)	
	5月	23	44	21	2.8	6	0	6				
	6月	22	43	21	2.3	5	0	5				
	第1四半期	23	44	21	2.6	14	0	14				
千歳平	4月	24	41	22	2.5	5	0	5	10~36 (23±13)	11~73	20~52 (24)	
	5月	24	44	22	2.4	4	0	4				
	6月	24	42	22	1.9	3	0	3				
	第1四半期	24	44	22	2.3	12	0	12				
平沼	4月	21	39	20	2.4	5	0	5	9~33 (21±12)	11~74	19~51 (21)	
	5月	21	40	19	2.4	6	0	6				
	6月	21	36	20	1.8	5	0	5				
	第1四半期	21	40	19	2.2	16	0	16				
泊	4月	22	42	20	3.5	8	0	8	6~36 (21±15)	9~91	19~61 (22)	
	5月	22	50	20	3.5	7	0	7				
	6月	21	41	20	2.0	4	0	4				
	第1四半期	22	50	20	3.1	19	0	19				
吹越	4月	22	36	21	2.1	2	0	2	13~33 (23±10)	13~66	21~46 (23)	
	5月	22	39	20	2.0	3	0	3				
	6月	21	40	21	1.8	5	0	5				
	第1四半期	22	40	20	2.0	10	0	10				
比較 対照 (青森市)	4月	28	42	26	2.5	5	0	5	15~39 (27±12)	15~75	26~52 (28)	
	5月	28	45	26	2.5	6	0	6				
	6月	28	42	26	1.5	3	0	3				
	第1四半期	28	45	26	2.2	14	0	14				

- ・測定値は1時間値。
- ・測定時間数は3か月間で約2,200時間。
- ・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。
- ・「平常の変動幅」は、平成28~令和2年度の測定値の「平均値±(標準偏差の3倍)」。
- ・「過去の測定値の範囲」は、平成28~令和2年度の測定値の「最小値~最大値」。
- ・「過去の同一四半期の測定値の範囲」は、平成28~令和2年度の測定値のうち同一四半期の測定値の「最小値~最大値」。  
また、括弧内の数値は平均値。
- ・「施設起因」は、監視対象施設である原子燃料サイクル施設に起因するもの。
- ・「降雨等」に分類する要因としては、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などが挙げられる。
- ・「施設起因」と「降雨等」の影響が同時に認められた場合は、その主たる原因に分類している。

(参考)モニタリングステーションによる空間放射線量率(電離箱)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	備考
尾駁	4月	61	79	58	2.6	
	5月	61	79	58	2.6	
	6月	61	79	58	2.2	
	第1四半期	61	79	58	2.5	
千歳平	4月	68	81	65	2.4	
	5月	68	86	65	2.2	
	6月	68	85	66	1.8	
	第1四半期	68	86	65	2.2	
平沼	4月	63	79	60	2.3	
	5月	63	80	60	2.2	
	6月	62	77	61	1.7	
	第1四半期	63	80	60	2.1	
泊	4月	62	80	58	3.3	
	5月	62	85	59	3.1	
	6月	61	78	58	1.9	
	第1四半期	62	85	58	2.9	
吹越	4月	64	76	61	2.2	
	5月	64	79	62	2.0	
	6月	63	81	62	1.8	
	第1四半期	64	81	61	2.0	

・測定値は1時間値。

・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含む。

②モニタリングポストによる空間放射線量率(NaI)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	平常の変動幅を外れた時間数 (単位:時間)	平常の変動幅を外れた原因と時間数 (単位:時間)		平常の変動幅	過去の測定値の範囲	過去の同一四半期の測定値の範囲	備考
							施設起因	降雨等				
横浜町役場	4月	20	35	19	2.4	7	0	7	12~30 (21±9)	17~72	19~45 (21)	
	5月	20	34	19	2.0	7	0	7				
	6月	20	47	19	2.4	9	0	9				
	第1四半期	20	47	19	2.2	23	0	23				
野辺地	4月	33	43	31	1.5	4	0	4	24~40 (32±8)	21~80	30~46 (32)	
	5月	32	40	31	1.3	0	0	0				
	6月	32	42	30	1.1	1	0	1				
	第1四半期	32	43	30	1.3	5	0	5				
砂子又	4月	21	36	20	2.9	13	0	13	10~32 (21±11)	12~93	19~48 (21)	
	5月	21	42	19	2.5	9	0	9				
	6月	21	48	19	2.7	10	0	10				
	第1四半期	21	48	19	2.7	32	0	32				
東北町役場	4月	20	35	18	2.6	8	0	8	10~32 (21±11)	13~75	17~47 (20)	
	5月	20	36	18	2.4	5	0	5				
	6月	20	35	18	1.9	4	0	4				
	第1四半期	20	36	18	2.3	17	0	17				
東北分庁舎	4月	21	37	19	2.6	6	0	6	10~32 (21±11)	13~68	17~46 (20)	
	5月	21	39	19	2.6	12	0	12				
	6月	20	39	19	1.9	6	0	6				
	第1四半期	21	39	19	2.4	24	0	24				
三沢市役所	4月	21	36	19	2.4	8	0	8	11~31 (21±10)	13~63	17~60 (21)	
	5月	21	39	19	2.5	13	0	13				
	6月	21	35	19	1.6	4	0	4				
	第1四半期	21	39	19	2.2	25	0	25				

- ・測定値は1時間値。
- ・測定時間数は3か月間で約2,200時間。
- ・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。
- ・「平常の変動幅」は、平成28~令和2年度の測定値の「平均値±(標準偏差の3倍)」。
- ・「過去の測定値の範囲」は、平成28~令和2年度の測定値の「最小値~最大値」。
- ・「過去の同一四半期の測定値の範囲」は、平成28~令和2年度の測定値のうち同一四半期の測定値の「最小値~最大値」。
- また、括弧内の数値は平均値。
- ・「施設起因」は、監視対象施設である原子燃料サイクル施設に起因するもの。
- ・「降雨等」に分類する要因としては、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などが挙げられる。
- ・「施設起因」と「降雨等」の影響が同時に認められた場合は、その主たる原因に分類している。

③モニタリングカーによる空間放射線量率(NaI)測定結果

ア 定点測定

測定地点		測定年月日	測定値 (nGy/h)	積雪深 (cm)	備考
六ヶ所村	石川	R3. 5.18	15	0	
	出戸	〃	18	0	
	老部川	〃	13	0	
	尾駱	R3. 5.19	15	0	
	沖付	〃	13	0	
	新納屋	〃	12	0	
	新栄	〃	17	0	
	市柳沼東畔	R3. 5.14	16	0	
	八森	R3. 5.18	15	0	
	六原	R3. 5.19	15	0	
	笹崎	〃	21	0	
	千歳平	〃	18	0	
	豊原	R3. 5.18	16	0	
	千樽	R3. 5.19	15	0	
	尾駱沼南畔	〃	16	0	
	弥栄平	〃	20	0	
清掃センター	R3. 5.14	18	0		
富ノ沢	〃	17	0		
横浜町	第一明神平	〃	18	0	
	第二明神平	〃	12	0	
	はまなす公園	〃	12	0	
野辺地町	上目ノ越	R3. 5.19	16	0	
	北砂沼	R3. 5.14	12	0	
青森市	比較対照 (青森市)	〃	19	0	

・測定値は10分値。

・降雨雪のない状況で測定。

イ 走行測定

走行ルート	測定年月日	測定値の範囲 (nGy/h)	備考
ルートA(千歳～平沼)	R3. 5.18	16 ～ 21	
ルートB(平沼～石川)	〃	12 ～ 20	
ルートC(猿子沢～新納屋)	〃	13 ～ 22	
ルートD(尾駱～中吹越)	R3. 5.19	13 ～ 21	
ルートE(中吹越～目ノ越)	〃	13 ～ 17	
ルートF(目ノ越～室ノ久保)	〃	13 ～ 17	
ルートG(二又～上弥栄)	R3. 5.14	16 ～ 19	
ルートH(森の踏切～沖付)	〃	14 ～ 24	
ルートI(弥栄平～千歳)	R3. 5.19	14 ～ 22	

・測定値は500 m毎の平均値。

・降雨雪のない状況で測定。

(2) 積算線量測定結果(RPLD)

測定地点		測定期間(日数)	3か月 積算線量 ( $\mu$ Gy/91日)	平常の変動幅 ( $\mu$ Gy/91日)	備考
六ヶ所村	尾 駁	R3. 3.25～R3. 6.24 (91)	97	83 ～ 104	
	千 歳 平	〃	98	87 ～ 106	
	平 沼	〃	94	87 ～ 103	
	泊	〃	93	86 ～ 99	
	出 戸	〃	85	75 ～ 87	
	老 部 川	〃	91	82 ～ 95	
	富 ノ 沢	〃	102	89 ～ 104	
	二 又	〃	94	87 ～ 98	
	むつ小川原石油備蓄	〃	95	83 ～ 96	
	室 ノ 久 保	〃	95	80 ～ 99	
六 原	〃	103	96 ～ 104		
倉 内	〃	92	80 ～ 95		
横 浜 町	吹 越	〃	90	86 ～ 94	
	明 神 平	〃	111	86 ～ 112	
	横 浜 町 役 場	〃	101	95 ～ 104	
野 辺 地 町	有 戸	〃	104	100 ～ 108	
	野 辺 地	〃	109	103 ～ 112	
東 通 村	白 糠	〃	97	92 ～ 102	
東 北 町	西 公 園 ( 東 北 分 庁 舎 )	〃	89	82 ～ 91	
	水 喰	〃	94	78 ～ 97	
	淋 代	〃	101	78 ～ 102	
	東 北 町 役 場	〃	96	89 ～ 99	
三 沢 市	三 沢 市 役 所	〃	110	101 ～ 111	
青 森 市	比 較 対 照 ( 青 森 市 )	〃	104	91 ～ 108	

- ・測定値は宇宙線の一部及び自己照射の線量を含む。
- ・「3か月積算線量」は測定期間の測定値を91日あたりに換算し整数で示した値。
- ・「平常の変動幅」は平成28～令和2年度の3か月積算線量の測定値の「最小値～最大値」。  
ただし、老部川については平成28年度第3四半期～令和2年度、倉内については平成29～令和2年度の3か月積算線量の測定値の「最小値～最大値」。

(3) 大気浮遊じん中の全 $\alpha$ 及び全 $\beta$ 放射能測定結果(単位:mBq/m<sup>3</sup>)

測定局	採取期間	検体数	全 $\alpha$			全 $\beta$			備考
			平均	最大	最小	平均	最大	最小	
尾 駁	R3. 3.29~R3. 5. 3	5	0.059	0.081	0.041	0.77	0.90	0.53	
	R3. 5. 3~R3. 5.31	4	< 0.038	0.060	*	0.46	0.64	0.33	
	R3. 5.31~R3. 6.28	4	< 0.027	0.041	*	0.42	0.70	0.23	
	第 1 四 半 期	13	< 0.043	0.081	*	0.57	0.90	0.23	
千 歳 平	R3. 3.29~R3. 5. 3	5	0.060	0.076	0.046	0.72	0.86	0.50	
	R3. 5. 3~R3. 5.31	4	< 0.038	0.078	*	0.44	0.61	0.33	
	R3. 5.31~R3. 6.28	4	< 0.038	0.072	*	0.42	0.73	0.29	
	第 1 四 半 期	13	< 0.046	0.078	*	0.54	0.86	0.29	
平 沼	R3. 3.29~R3. 5. 3	5	0.074	0.13	0.044	0.74	0.89	0.49	
	R3. 5. 3~R3. 5.31	4	< 0.032	0.072	*	0.44	0.67	0.26	
	R3. 5.31~R3. 6.28	4	< 0.031	0.051	*	0.45	0.78	0.31	
	第 1 四 半 期	13	< 0.048	0.13	*	0.56	0.89	0.26	
泊	R3. 3.29~R3. 5. 3	5	0.055	0.074	0.039	0.75	0.88	0.56	
	R3. 5. 3~R3. 5.31	4	< 0.030	0.048	*	0.43	0.64	0.30	
	R3. 5.31~R3. 6.28	4	< 0.027	0.047	*	0.47	0.80	0.31	
	第 1 四 半 期	13	< 0.039	0.074	*	0.57	0.88	0.30	
吹 越	R3. 3.29~R3. 5. 3	5	0.068	0.12	0.025	0.70	0.82	0.51	
	R3. 5. 3~R3. 5.31	4	0.038	0.065	0.017	0.46	0.68	0.33	
	R3. 5.31~R3. 6.28	4	< 0.041	0.052	*	0.48	0.76	0.35	
	第 1 四 半 期	13	< 0.050	0.12	*	0.56	0.82	0.33	
比較対照 (青森市)	R3. 3.29~R3. 5. 3	5	0.070	0.095	0.053	0.72	0.86	0.52	
	R3. 5. 3~R3. 5.31	4	0.038	0.057	0.020	0.45	0.70	0.31	
	R3. 5.31~R3. 6.28	4	0.040	0.046	0.029	0.51	0.84	0.37	
	第 1 四 半 期	13	0.051	0.095	0.020	0.57	0.86	0.31	

・ 168時間集じん終了後72時間放置、1時間測定。

・ 平均値の算出においては測定値に検出限界以下のものが含まれる場合、その時の検出限界値を測定値として算出し平均値に「<」を付ける。すべての測定値が検出限界以下の場合、平均値も検出限界以下とし「\*」と表示する。

## (4) 大気中の気体状β放射能測定結果(クリプトン-85換算)

(単位:kBq/m<sup>3</sup>)

測定局	測定月	平均	最大	最小	備考
尾 駁	4月	ND	ND	ND	
	5月	ND	ND	ND	
	6月	ND	ND	ND	
	第1四半期	ND	ND	ND	
千 歳 平	4月	ND	ND	ND	
	5月	ND	ND	ND	
	6月	ND	ND	ND	
	第1四半期	ND	ND	ND	
平 沼	4月	ND	ND	ND	
	5月	ND	ND	ND	
	6月	ND	ND	ND	
	第1四半期	ND	ND	ND	
泊	4月	ND	ND	ND	
	5月	ND	ND	ND	
	6月	ND	ND	ND	
	第1四半期	ND	ND	ND	
吹 越	4月	ND	ND	ND	
	5月	ND	ND	ND	
	6月	ND	ND	ND	
	第1四半期	ND	ND	ND	
比較対照 (青森市)	4月	ND	ND	ND	
	5月	ND	ND	ND	
	6月	ND	ND	ND	
	第1四半期	ND	ND	ND	

・測定値は1時間値。

・測定時間数は3か月間で約2,200時間。

・平均値の算出においては、測定値に定量下限値未満のものが含まれる場合、定量下限値を測定値として算出し、平均値に「<」を付ける。また、すべての測定値が定量下限値未満の場合、平均値も定量下限値未満とし、「ND」と表示する。



## (5) 大気中のヨウ素-131測定結果

(単位:mBq/m<sup>3</sup>)

測定局	採取期間	検体数	平均	最大	最小	備考
尾 駁	R3. 3.29 ~ R3. 4.28	4	ND	ND	ND	
	R3. 4.28 ~ R3. 5.31	5	ND	ND	ND	
	R3. 5.31 ~ R3. 6.28	4	ND	ND	ND	
	第 1 四 半 期	13	ND	ND	ND	
千 歳 平	R3. 3.29 ~ R3. 4.28	4	ND	ND	ND	
	R3. 4.28 ~ R3. 5.31	5	ND	ND	ND	
	R3. 5.31 ~ R3. 6.28	4	ND	ND	ND	
	第 1 四 半 期	13	ND	ND	ND	
平 沼	R3. 3.29 ~ R3. 4.28	4	ND	ND	ND	
	R3. 4.28 ~ R3. 5.31	5	ND	ND	ND	
	R3. 5.31 ~ R3. 6.28	4	ND	ND	ND	
	第 1 四 半 期	13	ND	ND	ND	
泊	R3. 3.29 ~ R3. 4.28	4	ND	ND	ND	
	R3. 4.28 ~ R3. 5.31	5	ND	ND	ND	
	R3. 5.31 ~ R3. 6.28	4	ND	ND	ND	
	第 1 四 半 期	13	ND	ND	ND	
吹 越	R3. 3.29 ~ R3. 4.28	4	ND	ND	ND	
	R3. 4.28 ~ R3. 5.31	5	ND	ND	ND	
	R3. 5.31 ~ R3. 6.28	4	ND	ND	ND	
	第 1 四 半 期	13	ND	ND	ND	
比較対照 (青森市)	R3. 3.29 ~ R3. 4.28	4	ND	ND	ND	
	R3. 4.28 ~ R3. 5.31	5	ND	ND	ND	
	R3. 5.31 ~ R3. 6.28	4	ND	ND	ND	
	第 1 四 半 期	13	ND	ND	ND	

・測定値は試料採取日に補正した値。

・平均値の算出においては、測定値に定量下限値未満のものが含まれる場合、定量下限値を測定値として算出し、平均値に「<」を付ける。また、すべての測定値が定量下限値未満の場合、平均値も定量下限値未満とし、「ND」と表示する。

(6) 環境試料中の放射能測定結果

試料名	採取地点	採取年月日	単位	機器分析											
				<sup>54</sup> Mn	<sup>60</sup> Co	<sup>106</sup> Ru	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>144</sup> Ce	<sup>154</sup> Eu	<sup>7</sup> Be	<sup>40</sup> K	<sup>214</sup> Bi	<sup>228</sup> Ac	
大気浮遊	尾駁	R3. 3.29~ R3.6.28	mBq/m <sup>3</sup>	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	2.4	ND	—	—	
	千歳平	R3. 3.29~ R3. 6.28		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	2.2	ND	—	—	
	平沼	R3. 3.29~ R3. 6.28		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	2.3	ND	—	—	
	泊	R3. 3.29~ R3. 6.28		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	2.2	ND	—	—	
	横浜町	R3. 3.29~ R3. 6.28		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	2.3	ND	—	—	
	比較対照 (青森市)	R3. 3.29~ R3. 6.28	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	2.4	ND	—	—		
雨水	千歳平	R3. 3.31~ R3. 4.30	Bq/L	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		R3. 4.30~ R3. 5.31	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		R3. 5.31~ R3. 6.28	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
降下物	千歳平	R3. 3.31~ R3. 4.30	Bq/m <sup>2</sup>	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	150	ND	—	—	
		R3. 4.30~ R3. 5.31		ND	ND	ND	ND	ND	ND	200	ND	—	—		
		R3. 5.31~ R3. 6.30		ND	ND	ND	ND	ND	ND	140	ND	—	—		
湖沼水	尾駁沼	R3. 4.22	mBq/L トリチウム については Bq/L	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—	
	鷹架沼	R3. 4.27		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—	
	小川原湖	R3. 4.23		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	390	—	—	—	
水道水	尾駁	R3. 4.13	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—		
井戸水	尾駁	R3. 4.13	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	180	—	—		
牛原乳 (乳)	二又	R3. 4.19	Bq/L <sup>14</sup> Cに ついては 上:Bq/L 下:Bq/g炭素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	52	—	—	
	庄内	R3. 4. 7		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	49	—	—	
	横浜町	R3. 4.19		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	52	—	—	
	東北町	R3. 4. 7		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	51	—	—	
牧草	第3団地	R3. 5.24	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	17	140	—	—	
	横浜町	R3. 5.24		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	21	96	—	—	
松葉	尾駁	R3. 4.16	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	55	56	—	—	
	比較対照 (青森市)	R3. 4.20		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	52	67	—	—	
海水	放出口 近	R3. 4.23	mBq/L トリチウム については Bq/L	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—	
	放出口 20 km 北地点	R3. 4.23		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—	
	放出口 20 km 南地点	R3. 4.23		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—	
魚類 (ヒラメ)	六ヶ所村 前面海域	R3. 6. 7	Bq/kg生	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
貝類 (ホタテ)	陸奥湾	R3. 6.23	トリチウム については 上:Bq/kg生 下:Bq/L	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	91	—	—	
海藻類 (チガイソ)	六ヶ所村 前面海域	R3. 4.28	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	230	—	—	

・Uは、<sup>234</sup>U、<sup>235</sup>U及び<sup>238</sup>Uの合計。

・機器分析によるγ線放出核種、<sup>3</sup>H及び<sup>90</sup>Srの測定値は試料採取日に補正した値。

・ホタテ(陸奥湾)は東通原子力発電所環境放射線調査試料を兼ねる。

放射化学分析									備 考
<sup>3</sup> H	<sup>14</sup> C	<sup>90</sup> Sr	<sup>129</sup> I	<sup>238</sup> Pu	<sup>239+240</sup> Pu	<sup>241</sup> Am	<sup>244</sup> Cm	U	
-	-	ND	-	ND	ND	-	-	ND	
-	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	
-	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	
-	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	
-	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	
-	-	ND	-	ND	ND	-	-	0.0008	
ND	-	-	-	-	-	-	-	-	
ND	-	-	-	-	-	-	-	-	
ND	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ND	-	ND	-	-	-	-	-	-	塩分 6.1
ND	-	-	-	-	-	-	-	-	塩分 4.7
ND	-	-	-	-	-	-	-	-	(海水の塩分は約35)
ND	-	ND	-	-	-	-	-	-	
ND	-	ND	-	-	-	-	-	-	
-	<sup>15</sup> 0.23	ND	-	-	-	-	-	ND	
-	-	ND	-	-	-	-	-	ND	
-	<sup>14</sup> 0.23	ND	-	-	-	-	-	-	
-	-	ND	-	-	-	-	-	-	
-	-	0.07	-	ND	ND	-	-	ND	チモシー、オーチャードグラス(1番草)
-	-	0.15	-	ND	ND	-	-	ND	チモシー、リードカナリー、オーチャードグラス(1番草)
-	-	-	-	-	-	-	-	0.05	
-	-	-	-	-	-	-	-	0.06	
ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	
ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	
ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	
ND	-	-	-	-	-	-	-	-	
ND	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	
-	-	ND	-	ND	0.006	-	-	-	

(7) 大気中の水蒸気状トリチウム測定結果

測定地点	採取期間	測定値		大気中水分量 (g/m <sup>3</sup> )	備考
		大気中濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )	水分中濃度 (Bq/L)		
尾 駁	R3. 3.31 ~ R3. 4.30	ND	ND	5.3	
	R3. 4.30 ~ R3. 5.31	ND	ND	8.8	
	R3. 5.31 ~ R3. 6.30	ND	ND	12	
横 浜 町	R3. 3.31 ~ R3. 4.30	ND	ND	5.7	
	R3. 4.30 ~ R3. 5.31	ND	ND	9.1	
	R3. 5.31 ~ R3. 6.30	ND	ND	12	
比較対照 (青森市)	R3. 3.31 ~ R3. 4.30	ND	ND	5.2	
	R3. 4.30 ~ R3. 5.31	ND	ND	8.6	
	R3. 5.31 ~ R3. 6.30	ND	ND	12	

・測定値は試料採取日に補正した値。

## (8) 大気中の気体状フッ素測定結果

(単位:ppb)

測定局	測定月	平均	最大	最小	備考
尾駸	4月	ND	ND	ND	
	5月	ND	ND	ND	
	6月	ND	ND	ND	
	第1四半期	ND	ND	ND	
比較対照 (青森市)	4月	ND	ND	ND	
	5月	ND	ND	ND	
	6月	ND	ND	ND	
	第1四半期	ND	ND	ND	

## (9) 環境試料中のフッ素測定結果

試料名	採取地点	採取年月日	単位	測定値	備考
大気	尾駸	R3. 4. 8 ~ R3. 4.15	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	ND	
	比較対照 (青森市)	R3. 4. 8 ~ R3. 4.15		ND	
湖沼水	尾駸沼	R3. 4.22	mg/L	0.2	塩分 6.1
	鷹架沼	R3. 4.27		0.1	塩分 4.7 (海水の塩分は約35)
牛乳(原乳)	二又	R3. 4.19		ND	
	庄内	R3. 4. 7		ND	
牧草	第3団地	R3. 5.24	mg/kg生	ND	チモシー、オーチャートグラス(1番草)

・「大気」の測定値は粒子状フッ素及び気体状フッ素の合計。

(10) 気象観測結果

① 風速・気温・湿度・降水量・積雪深

測定局	測定月	風速(m/sec)		気温(℃)			湿度(%)		降水量(mm)	積雪深(cm)				
		平均	最大	平均	最高	最低	平均	最小		平均	最大	最小	過去の値	
													平均	最大
尾駁	4月	3.2	10.3	8.5	19.6	-0.8	68	22	98.5	0	2	0	0	9
	5月	2.8	11.0	13.1	23.6	5.6	80	33	106.5	0	0	0	0	0
	6月	2.4	7.9	17.5	27.7	9.3	86	39	63.0	0	0	0	0	0
	第1四半期	2.8	11.0	13.0	27.7	-0.8	78	22	268.0	0	2	0	0	9
千歳平	4月	3.0	9.4	8.4	19.7	-1.1	64	22	94.0	0	4	0	0	18
	5月	2.8	7.9	13.4	23.3	5.3	76	23	83.5	0	0	0	0	0
	6月	2.6	5.9	17.7	29.0	8.9	84	31	46.5	0	0	0	0	0
	第1四半期	2.8	9.4	13.2	29.0	-1.1	75	22	224.0	0	4	0	0	18
平沼	4月	—	—	—	—	—	—	—	86.5	0	1	0	0	7
	5月	—	—	—	—	—	—	—	84.5	0	0	0	0	0
	6月	—	—	—	—	—	—	—	38.5	0	0	0	0	0
	第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	209.5	0	1	0	0	7
泊	4月	—	—	—	—	—	—	—	154.5	0	7	0	0	3
	5月	—	—	—	—	—	—	—	153.5	0	0	0	0	0
	6月	—	—	—	—	—	—	—	102.5	0	0	0	0	0
	第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	410.5	0	7	0	0	3
吹越	4月	—	—	—	—	—	—	—	82.0	0	0	0	0	11
	5月	—	—	—	—	—	—	—	81.5	0	0	0	0	0
	6月	—	—	—	—	—	—	—	44.0	0	0	0	0	0
	第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	207.5	0	0	0	0	11
比較 対照 (青森市)	4月	—	—	—	—	—	—	—	69.5	0	0	0	0	7
	5月	—	—	—	—	—	—	—	114.5	0	0	0	0	0
	6月	—	—	—	—	—	—	—	25.5	0	0	0	0	0
	第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	209.5	0	0	0	0	7

・測定値は「地上気象観測指針(平成14年気象庁)」に基づく1時間値。

・積雪深における「過去の値」は、前年度までの5年間(平成28～令和2年度)の同一時期の平均値及び最大値。

②大気安定度出現頻度表

単位:時間(括弧内は%)

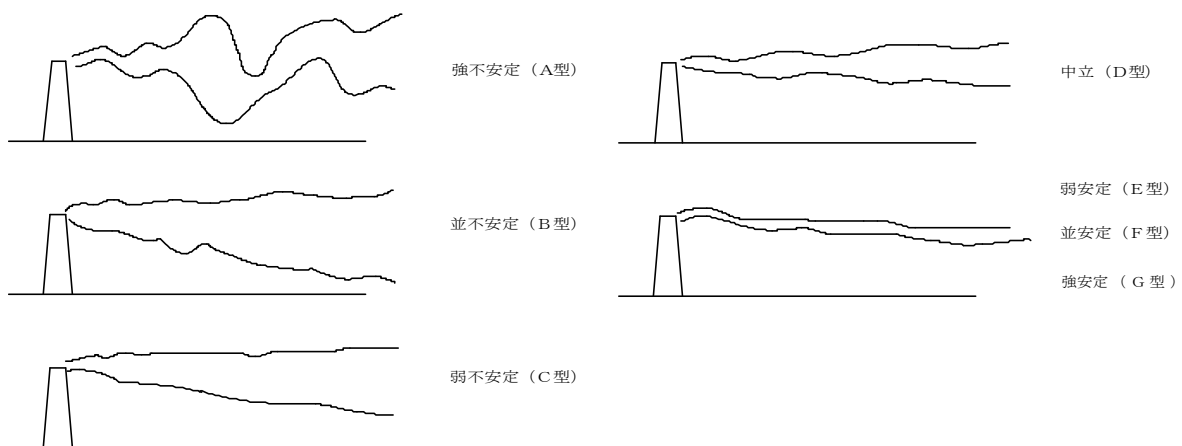
測定局	分類 測定月	A	A-B	B	B-C	C	C-D	D	E	F	G	計	備考
尾駁	4月	5 (0.7)	36 (5.0)	49 (6.8)	11 (1.5)	113 (15.7)	24 (3.3)	300 (41.7)	24 (3.3)	40 (5.6)	118 (16.4)	720 (100)	
	5月	10 (1.3)	38 (5.1)	65 (8.7)	9 (1.2)	100 (13.4)	34 (4.6)	366 (49.2)	25 (3.4)	18 (2.4)	79 (10.6)	744 (100)	
	6月	26 (3.6)	56 (7.8)	76 (10.6)	15 (2.1)	69 (9.6)	8 (1.1)	365 (50.7)	16 (2.2)	13 (1.8)	76 (10.6)	720 (100)	
	第1 四半期	41 (1.9)	130 (6.0)	190 (8.7)	35 (1.6)	282 (12.9)	66 (3.0)	1,031 (47.2)	65 (3.0)	71 (3.3)	273 (12.5)	2,184 (100)	
千歳平	4月	5 (0.7)	22 (3.1)	49 (6.8)	20 (2.8)	113 (15.7)	36 (5.0)	251 (34.9)	45 (6.3)	43 (6.0)	135 (18.8)	719 (100)	
	5月	5 (0.7)	26 (3.5)	65 (8.7)	23 (3.1)	112 (15.1)	32 (4.3)	307 (41.3)	39 (5.2)	41 (5.5)	93 (12.5)	743 (100)	
	6月	20 (2.8)	57 (7.9)	57 (7.9)	32 (4.5)	58 (8.1)	17 (2.4)	331 (46.2)	15 (2.1)	33 (4.6)	97 (13.5)	717 (100)	
	第1 四半期	30 (1.4)	105 (4.8)	171 (7.8)	75 (3.4)	283 (13.0)	85 (3.9)	889 (40.8)	99 (4.5)	117 (5.4)	325 (14.9)	2,179 (100)	

・「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針(平成13年3月 原子力安全委員会)」に基づく1時間値を用いて分類。

大気安定度分類表

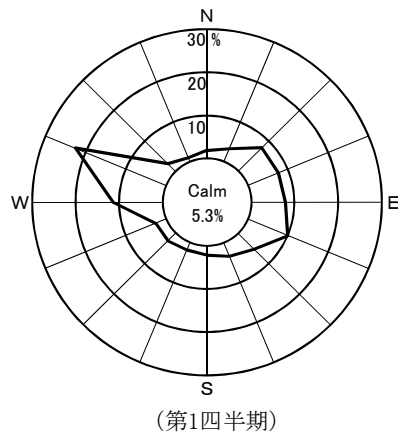
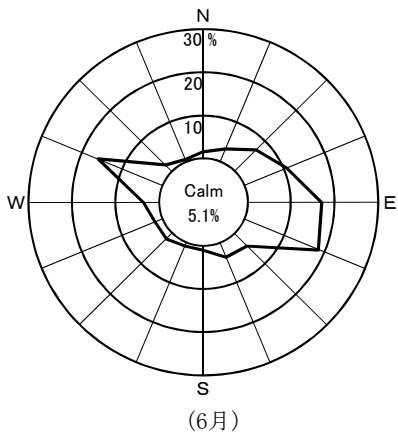
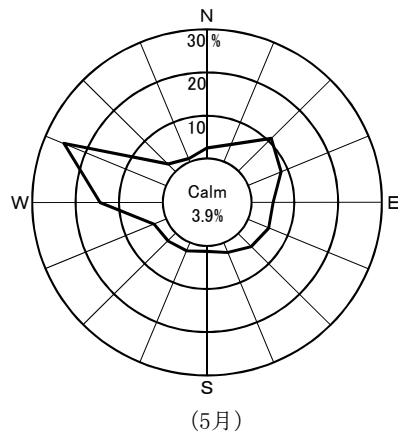
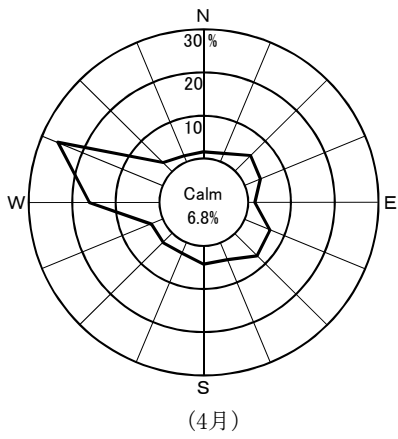
風速(U) m/s	日射量(T) kW/m <sup>2</sup>				放射収支量(Q) kW/m <sup>2</sup>		
	T ≥ 0.60	0.60 > T ≥ 0.30	0.30 > T ≥ 0.15	0.15 > T	Q ≥ -0.020	-0.020 > Q ≥ -0.040	-0.040 > Q
U < 2	A	A-B	B	D	D	G	G
2 ≤ U < 3	A-B	B	C	D	D	E	F
3 ≤ U < 4	B	B-C	C	D	D	D	E
4 ≤ U < 6	C	C-D	D	D	D	D	D
6 ≤ U	C	D	D	D	D	D	D

発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針 (平成13年3月 原子力安全委員会)

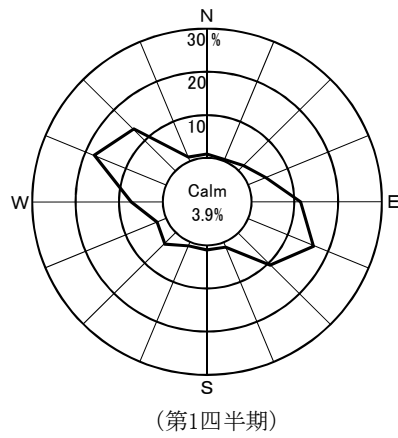
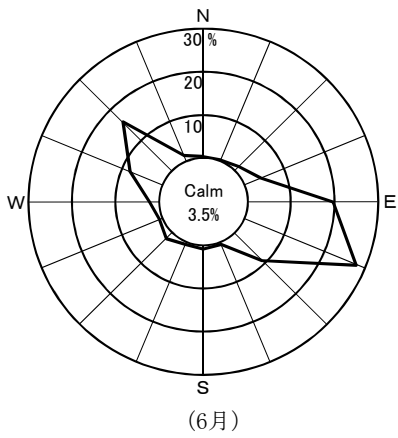
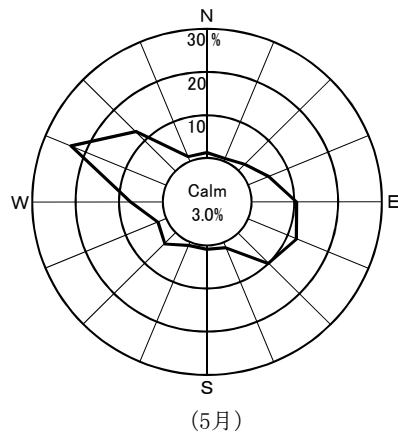
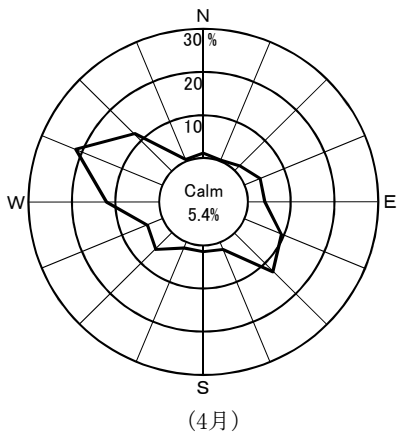


大気安定度と煙の型との模式図

③ 風配図  
尾駁



千歳平



Calm: 風速0.5 m/sec未満



## 2. 事業者実施分測定結果

(1)空間放射線量率測定結果

①モニタリングステーションによる空間放射線量率(NaI)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	平常の変動幅を外れた時間数(単位:時間)	平常の変動幅を外れた原因と時間数(単位:時間)		平常の変動幅	過去の測定値の範囲	過去の同一四半期の測定値の範囲	備考
							施設起因	降雨等				
老部川	4月	20	35	18	2.0	3	0	3	9~31 (20±11)	10~66	18~47 (20)	
	5月	20	39	18	2.3	6	0	6				
	6月	20	38	19	1.9	7	0	7				
	第1四半期	20	39	18	2.1	16	0	16				
二又	4月	21	37	20	2.2	1	0	1	8~34 (21±13)	11~80	18~48 (22)	
	5月	21	43	20	2.6	4	0	4				
	6月	21	38	20	2.1	6	0	6				
	第1四半期	21	43	20	2.3	11	0	11				
室ノ久保	4月	21	35	20	1.9	2	0	2	11~31 (21±10)	12~85	19~44 (21)	
	5月	21	37	19	2.0	4	0	4				
	6月	21	38	19	1.9	6	0	6				
	第1四半期	21	38	19	2.0	12	0	12				

- ・測定値は1時間値。
- ・測定時間数は3か月間で約2,200時間。
- ・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。
- ・「平常の変動幅」は、平成28～令和2年度の測定値の「平均値±(標準偏差の3倍)」。
- ・「過去の測定値の範囲」は、平成28～令和2年度の測定値の「最小値～最大値」。
- ・「過去の同一四半期の測定値の範囲」は、平成28～令和2年度の測定値のうち同一四半期の測定値の「最小値～最大値」。  
また、括弧内の数値は平均値。
- ・「施設起因」は、監視対象施設である原子燃料サイクル施設に起因するもの。
- ・「降雨等」に分類する要因としては、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などが挙げられる。
- ・「施設起因」と「降雨等」の影響が同時に認められた場合は、その主たる原因に分類している。

## (参考)モニタリングステーションによる空間放射線量率(電離箱)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	備考
老部川	4月	55	71	53	2.4	
	5月	55	75	53	2.5	
	6月	55	74	52	2.1	
	第1四半期	55	75	52	2.3	
二又	4月	56	70	53	2.4	
	5月	56	77	54	2.6	
	6月	56	73	53	2.1	
	第1四半期	56	77	53	2.4	
室ノ久保	4月	53	66	51	2.1	
	5月	53	71	51	2.2	
	6月	53	72	50	2.0	
	第1四半期	53	72	50	2.1	

- ・測定値は1時間値。
- ・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含む。

(2)積算線量測定結果(RPLD)

測定地点		測定期間 (日数)	3か月積算線量 ( $\mu$ Gy/91日)	平常の変動幅 ( $\mu$ Gy/91日)	備考
六ヶ所村	老 部 川	R3. 3.25～R3. 6.24 (91)	89	80 ～ 91	
	二 又	〃	94	80 ～ 98	
	室 ノ 久 保	〃	91	78 ～ 92	
	石 川	〃	102	85 ～ 105	
	新 町	〃	107	85 ～ 112	
	大 石 平	〃	104	81 ～ 108	
	富 ノ 沢	〃	98	84 ～ 105	
	雲 雀 平	〃	97	90 ～ 104	
	むつ小川原石油備蓄	〃	92	79 ～ 96	
	千 樽	〃	95	77 ～ 98	
	豊 原	〃	95	74 ～ 96	
	千 歳 平	〃	92	80 ～ 95	
六 原	〃	98	92 ～ 103		

- ・測定値は宇宙線の一部及び自己照射の線量を含む。
- ・「3か月積算線量」は測定期間の測定値を91日あたりに換算し整数で示した値。
- ・「平常の変動幅」は平成28～令和2年度の3か月積算線量の測定値の「最小値～最大値」。

(3)大気浮遊じん中の全 $\alpha$ 及び全 $\beta$ 放射能測定結果(単位:mBq/m<sup>3</sup>)

測定局	採取期間	検体数	全 $\alpha$			全 $\beta$			備考
			平均	最大	最小	平均	最大	最小	
老部川	R3. 3.29~R3. 5. 3	5	0.051	0.073	0.034	0.39	0.50	0.26	
	R3. 5. 3~R3. 5.31	4	< 0.034	0.055	*	< 0.20	0.34	*	
	R3. 5.31~R3. 6.28	4	< 0.029	0.044	*	< 0.21	0.38	*	
	第 1 四 半 期	13	< 0.039	0.073	*	< 0.28	0.50	*	
二又	R3. 3.29~R3. 5. 3	5	0.089	0.16	0.050	0.40	0.57	0.25	
	R3. 5. 3~R3. 5.31	4	0.062	0.11	0.035	0.28	0.39	0.20	
	R3. 5.31~R3. 6.28	4	0.054	0.073	0.035	< 0.24	0.37	*	
	第 1 四 半 期	13	0.070	0.16	0.035	< 0.31	0.57	*	
室ノ久保	R3. 3.29~R3. 5. 3	5	0.065	0.10	0.044	0.53	0.65	0.39	
	R3. 5. 3~R3. 5.31	4	0.038	0.059	0.019	0.29	0.35	0.24	
	R3. 5.31~R3. 6.28	4	0.037	0.061	0.018	0.29	0.41	0.23	
	第 1 四 半 期	13	0.048	0.10	0.018	0.38	0.65	0.23	

- ・ 168時間集じん終了後72時間放置、1時間測定。
- ・ 平均値の算出においては測定値に検出限界以下のものが含まれる場合、そのときの検出限界値を測定値として算出し、平均値に「<」を付ける。全ての測定値が検出限界以下の場合、平均値も検出限界以下とし「\*」と表示する。

(4)大気中の気体状β放射能測定結果(クリプトン-85換算) (単位:kBq/m<sup>3</sup>)

測定局	測定月	平均	最大	最小	備考
老部川	4月	ND	ND	ND	
	5月	ND	ND	ND	
	6月	ND	ND	ND	
	第1四半期	ND	ND	ND	
二又	4月	ND	ND	ND	
	5月	ND	ND	ND	
	6月	ND	ND	ND	
	第1四半期	ND	ND	ND	
室ノ久保	4月	ND	ND	ND	
	5月	ND	ND	ND	
	6月	ND	ND	ND	
	第1四半期	ND	ND	ND	

- ・測定値は1時間値。
- ・測定時間数は3か月間で約2,200時間。
- ・平均値の算出においては、測定値に定量下限値未満のものが含まれる場合、定量下限値を測定値として算出し、平均値に「<」を付ける。全ての測定値が定量下限値未満の場合、平均値も定量下限値未満とし、「ND」と表示する。

## (5)大気中のヨウ素-131測定結果

(単位:mBq/m<sup>3</sup>)

測定局	採取期間	検体数	平均	最大	最小	備考
老 部 川	R3. 3.29 ~ R3. 4.28	4	ND	ND	ND	
	R3. 4.28 ~ R3. 5.31	5	ND	ND	ND	
	R3. 5.31 ~ R3. 6.28	4	ND	ND	ND	
	第 1 四 半 期	13	ND	ND	ND	
二 又	R3. 3.29 ~ R3. 4.28	4	ND	ND	ND	
	R3. 4.28 ~ R3. 5.31	5	ND	ND	ND	
	R3. 5.31 ~ R3. 6.28	4	ND	ND	ND	
	第 1 四 半 期	13	ND	ND	ND	
室ノ久保	R3. 3.29 ~ R3. 4.28	4	ND	ND	ND	
	R3. 4.28 ~ R3. 5.31	5	ND	ND	ND	
	R3. 5.31 ~ R3. 6.28	4	ND	ND	ND	
	第 1 四 半 期	13	ND	ND	ND	

・測定値は、試料採取日に補正した値。

・平均値の算出においては、測定値に定量下限値未満のものが含まれる場合、定量下限値を測定値として算出し、平均値に「<」を付ける。全ての測定値が定量下限値未満の場合、平均値も定量下限値未満とし「ND」と表示する。

(6)環境試料中の放射能測定結果

試料名	採取地点	採取年月日	単位	機 器 分 析										
				<sup>54</sup> Mn	<sup>60</sup> Co	<sup>106</sup> Ru	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>144</sup> Ce	<sup>154</sup> Eu	<sup>7</sup> Be	<sup>40</sup> K	<sup>214</sup> Bi	<sup>228</sup> Ac
大気浮遊じん	老部川	R3. 3.29~ R3. 6.28	mBq/m <sup>3</sup>	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	2.3	ND	—	—
	二又	R3. 3.29~ R3. 6.28		ND	ND	ND	ND	ND	ND	2.1	ND	—	—	
	室ノ久保	R3. 3.29~ R3. 6.28		ND	ND	ND	ND	ND	ND	2.3	ND	—	—	
湖沼水	尾駱沼1	R3. 4.16		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—
	尾駱沼2	R3. 4.16		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—
水道水	尾駱	R3. 4. 9	mBq/L トリチウムに ついては Bq/L	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—
	千歳平	R3. 4. 9		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—
	平沼	R3. 4. 7		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—
	二又	R3. 4. 7		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—
井戸水	尾駱 1	R3. 4. 8		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	180	—	—
	尾駱 2	R3. 4. 8		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—
牛乳(原乳)	豊原	R3. 4. 6	Bq/L <sup>14</sup> Cに ついては 上:Bq/L 下:Bq/g炭素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	49	—	—
	六原	R3. 4. 6		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	48	—	—
牧草	富ノ沢	R3. 5.27	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	11	85	—	—
	二又	R3. 5.27		ND	ND	ND	ND	ND	ND	19	140	—	—	
	豊原	R3. 6. 2		ND	ND	ND	ND	ND	ND	11	130	—	—	
	六原	R3. 5.27		ND	ND	ND	ND	ND	ND	11	140	—	—	
海水	放出口近	R3. 4.24	mBq/L トリチウムに ついては Bq/L	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—
	放出口 北5km点	R3. 4.24		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—
	放出口 南5km点	R3. 4.24		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—

・Uは、<sup>234</sup>U、<sup>235</sup>U及び<sup>238</sup>Uの合計。

・機器分析によるγ線放出核種、<sup>3</sup>H及び<sup>90</sup>Srの測定値は、試料採取日に補正した値。



放射化学分析									備考
<sup>3</sup> H	<sup>14</sup> C	<sup>90</sup> Sr	<sup>129</sup> I	<sup>238</sup> Pu	<sup>239+240</sup> Pu	<sup>241</sup> Am	<sup>244</sup> Cm	U	
—	—	ND	—	ND	ND	—	—	ND	
—	—	ND	—	ND	ND	—	—	ND	
—	—	ND	—	ND	ND	—	—	ND	
ND	—	ND	—	ND	ND	—	—	26	塩分 6.5 塩分 6.5 (海水の塩分は約35)
ND	—	ND	—	ND	ND	—	—	23	
ND	—	ND	—	ND	ND	—	—	—	
ND	—	ND	—	ND	ND	—	—	—	
ND	—	ND	—	ND	ND	—	—	—	
ND	—	ND	—	ND	ND	—	—	—	
ND	—	ND	—	—	—	—	—	—	
ND	—	3.6	—	—	—	—	—	—	
—	15 0.24	ND	—	—	—	—	—	—	
—	15 0.23	ND	—	—	—	—	—	—	
—	—	0.05	—	—	—	—	—	ND	チモシー(1番草) オーチャートグラス(1番草) チモシー(1番草) オーチャートグラス(1番草) チモシー(1番草) オーチャートグラス(1番草) オーチャートグラス(1番草)
—	—	0.07	—	—	—	—	—	ND	
—	—	0.05	—	—	—	—	—	—	
—	—	0.06	—	—	—	—	—	—	
ND	—	ND	—	ND	ND	—	—	—	
ND	—	ND	—	ND	ND	—	—	—	
ND	—	ND	—	ND	ND	—	—	—	

(7)大気中の水蒸気状トリチウム測定結果

測定地点	採取期間	測定値		大気中水分量 (g/m <sup>3</sup> )	備考
		大気中濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )	水分中濃度 (Bq/L)		
老部川	R3. 3.31 ~ R3. 4.30	ND	ND	5.4	
	R3. 4.30 ~ R3. 5.31	ND	ND	8.2	
	R3. 5.31 ~ R3. 6.30	ND	ND	12	
二又	R3. 3.31 ~ R3. 4.30	ND	ND	5.3	
	R3. 4.30 ~ R3. 5.31	ND	ND	8.3	
	R3. 5.31 ~ R3. 6.30	ND	ND	12	
室ノ久保	R3. 3.31 ~ R3. 4.30	ND	ND	5.6	
	R3. 4.30 ~ R3. 5.31	ND	ND	8.7	
	R3. 5.31 ~ R3. 6.30	ND	ND	13	

・測定値は、試料採取日に補正した値。

## (8)大気中の気体状フッ素測定結果

(単位:ppb)

測定局	測定月	平均	最大	最小	備考
老部川	4月	ND	ND	ND	
	5月	ND	ND	ND	
	6月	ND	ND	ND	
	第1四半期	ND	ND	ND	
二又	4月	ND	ND	ND	
	5月	ND	ND	ND	
	6月	ND	ND	ND	
	第1四半期	ND	ND	ND	
室ノ久保	4月	ND	ND	ND	
	5月	ND	ND	ND	
	6月	ND	ND	ND	
	第1四半期	ND	ND	ND	

(9)環境試料中のフッ素測定結果

試料名	採取地点	採取年月日	単位	測定値	備考
大気	二又	R3. 4. 2～ R3. 4.12	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	ND	
	室ノ久保	R3. 4. 2～ R3. 4.12		ND	
湖沼水	尾駁沼1	R3. 4.16	mg/L	0.3	塩分 6.5 塩分 6.5 (海水の塩分は約35)
	尾駁沼2	R3. 4.16		0.3	
牧草	富ノ沢	R3. 5.27	mg/kg生	ND	チモシー(1番草) オーチャートグラス(1番草)
	二又	R3. 5.27		ND	

・「大気」の測定値は粒子状フッ素及び気体状フッ素の合計。

(10)気象観測結果

①風速・気温・湿度・降水量・積雪深

測定局	測定月	風速(m/sec)		気温(℃)			湿度(%)		降水量(mm)	積雪深(cm)				
		平均	最大	平均	最高	最低	平均	最小		平均	最大	最小	過去の値	
													平均	最大
老部川	4月	—	—	—	—	—	—	—	100.0	0	1	0	0	3
	5月	—	—	—	—	—	—	—	103.5	0	0	0	0	0
	6月	—	—	—	—	—	—	—	47.5	0	0	0	0	0
	第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	251.0	0	1	0	0	3
二又	4月	2.9	9.6	7.7	19.2	-4.6	65	19	98.0	0	0	0	0	16
	5月	2.6	9.1	12.7	22.9	1.8	78	32	90.5	0	0	0	0	0
	6月	2.1	7.2	17.2	28.3	6.1	82	39	44.0	0	0	0	0	0
	第1四半期	2.5	9.6	12.5	28.3	-4.6	75	19	232.5	0	0	0	0	16
室ノ久保	4月	—	—	—	—	—	—	—	96.5	0	1	0	0	4
	5月	—	—	—	—	—	—	—	88.0	0	0	0	0	0
	6月	—	—	—	—	—	—	—	44.5	0	0	0	0	0
	第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	229.0	0	1	0	0	4

・測定値は「地上気象観測指針(平成14年気象庁)」に基づく1時間値。

・積雪深における「過去の値」は、前年度までの5年間(平成28～令和2年度)の同一時期の平均値及び最大値。

②大気安定度出現頻度表

単位:時間(括弧内は%)

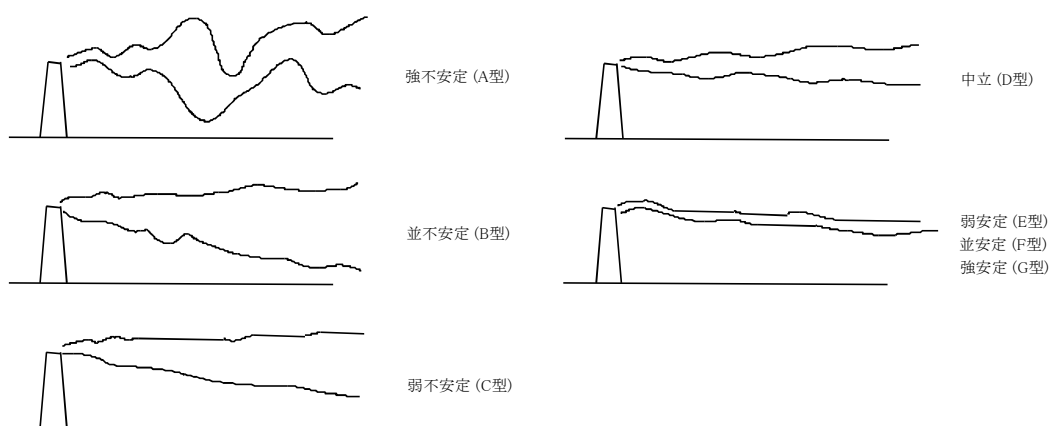
測定局	分類	A	A-B	B	B-C	C	C-D	D	E	F	G	計	備考
	測定月												
二又	4月	7 (1.0)	29 (4.0)	59 (8.2)	19 (2.6)	107 (14.9)	30 (4.2)	249 (34.6)	27 (3.8)	43 (6.0)	150 (20.8)	720 (100)	
	5月	5 (0.7)	26 (3.6)	68 (9.3)	20 (2.7)	103 (14.1)	18 (2.5)	334 (45.6)	18 (2.5)	17 (2.3)	123 (16.8)	732 (100)	
	6月	37 (5.1)	52 (7.2)	86 (11.9)	28 (3.9)	51 (7.1)	5 (0.7)	310 (43.1)	12 (1.7)	13 (1.8)	126 (17.5)	720 (100)	
	第1 四半期	49 (2.3)	107 (4.9)	213 (9.8)	67 (3.1)	261 (12.0)	53 (2.4)	893 (41.1)	57 (2.6)	73 (3.4)	399 (18.4)	2172 (100)	

・「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針(平成13年3月 原子力安全委員会)」に基づく1時間値を用いて分類。

大気安定度分類表

風速(U) m/s	日射量(T) kW/m <sup>2</sup>				放射収支量(Q) kW/m <sup>2</sup>		
	T ≥ 0.60	0.60 > T ≥ 0.30	0.30 > T ≥ 0.15	0.15 > T	Q ≥ -0.020	-0.02 > Q ≥ -0.040	-0.040 > Q
U < 2	A	A-B	B	D	D	G	G
2 ≤ U < 3	A-B	B	C	D	D	E	F
3 ≤ U < 4	B	B-C	C	D	D	D	E
4 ≤ U < 6	C	C-D	D	D	D	D	D
6 ≤ U	C	D	D	D	D	D	D

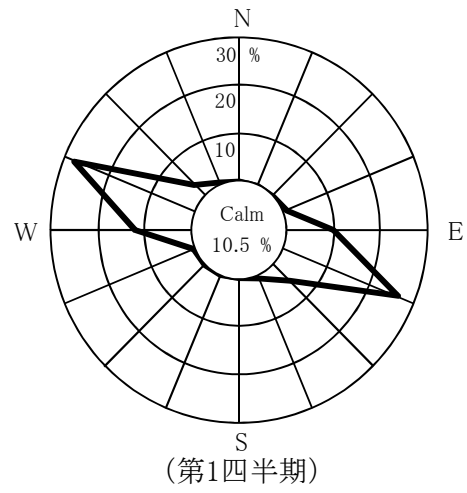
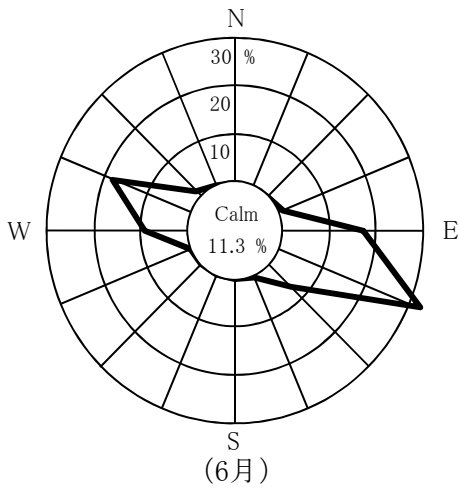
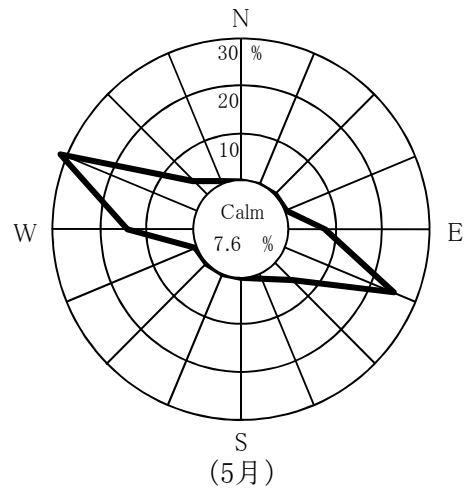
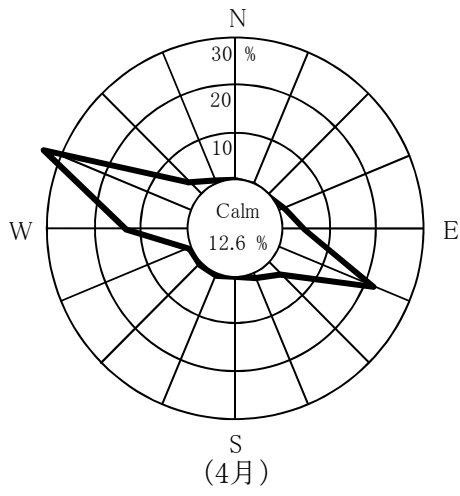
・発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針(平成13年3月 原子力安全委員会)



大気安定度と煙の型との模式

③風配図

二 又



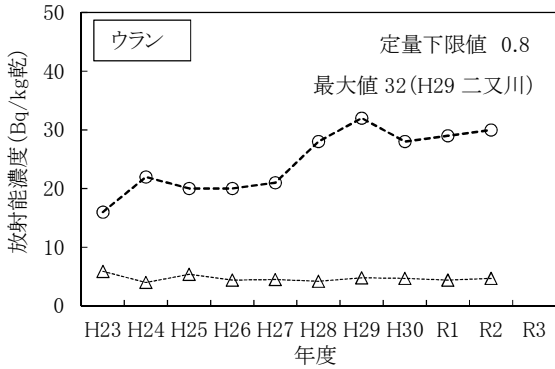
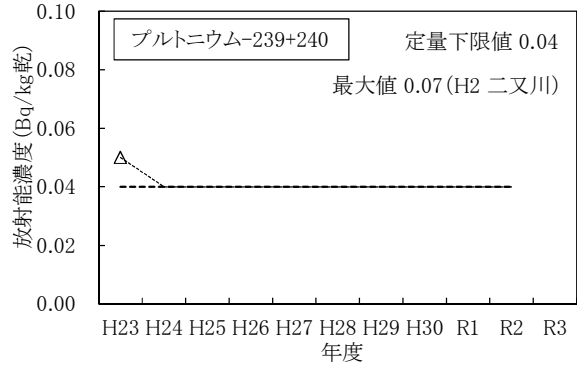
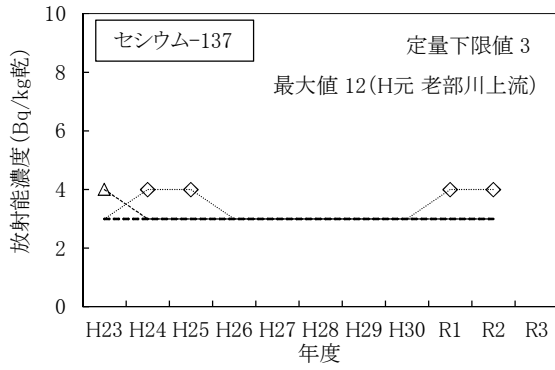
Calm: 風速0.5 m/sec未満





### 3. 参 考 图 表

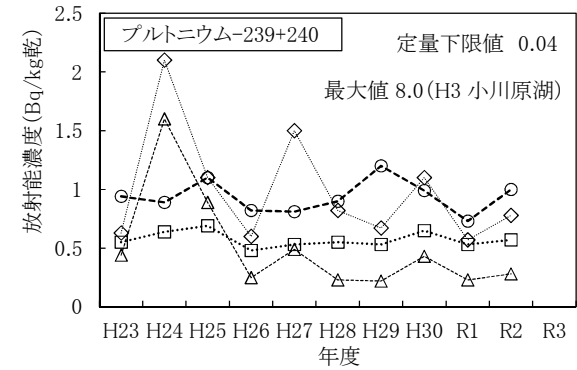
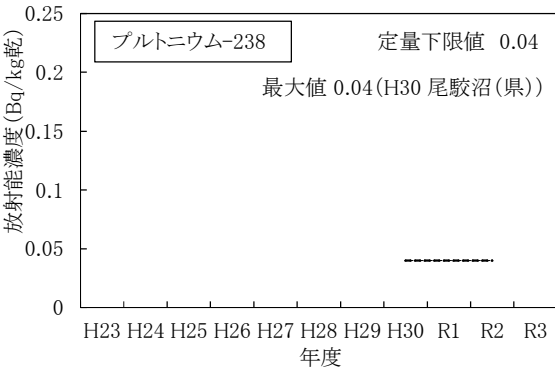
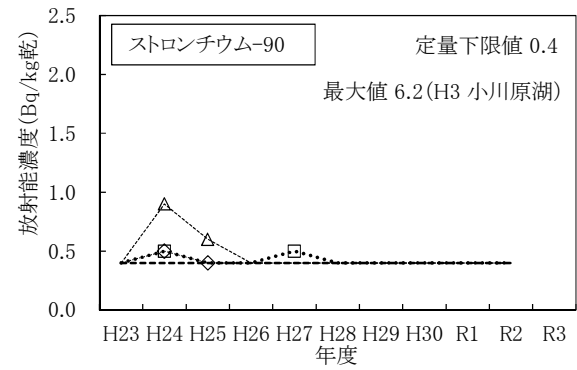
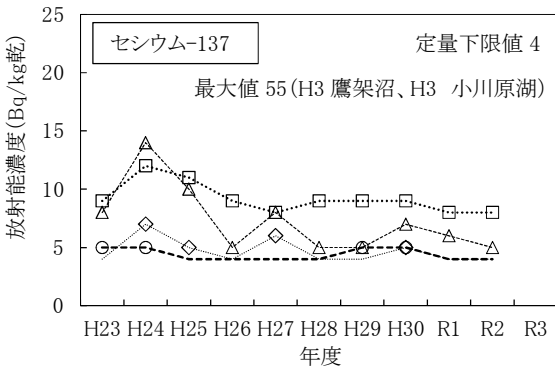
(1) 河底土中の放射能濃度の推移

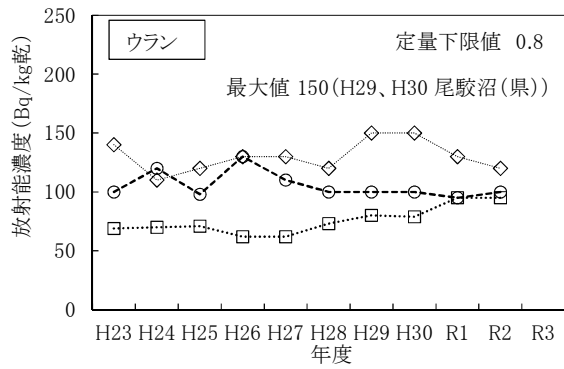
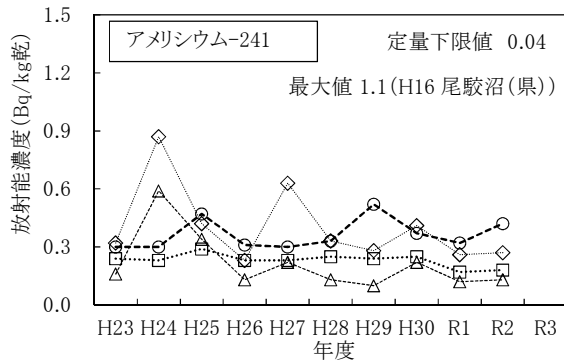


(凡例)  
 ◆ 老部川上流                      □ 老部川下流(県)  
 ▲ 老部川下流(事業者)            ○ 二又川

- ・プルトニウム-238については、これまでの測定値が全てNDであったためグラフの作成を省略した。
- ・マーカの無い箇所はNDを示す。
- ・ウランはウラン-234、ウラン-235及びウラン-238の合計。

(2) 湖底土中の放射能濃度の推移



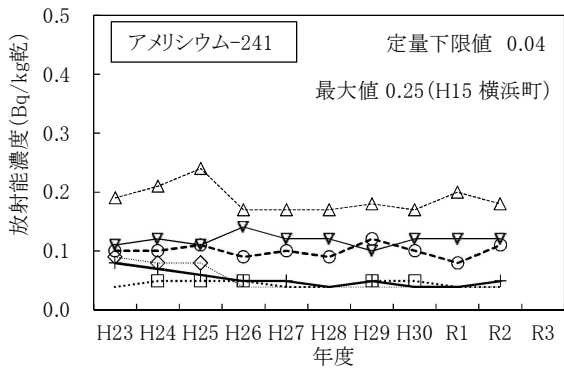
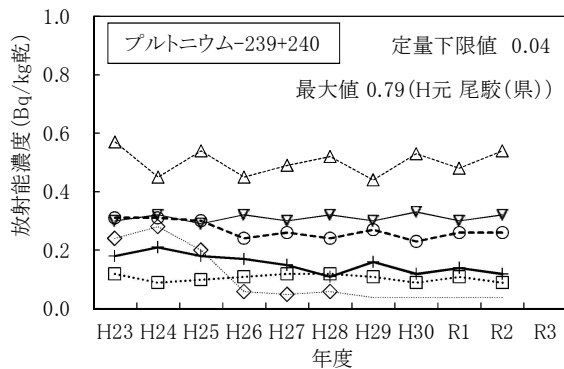
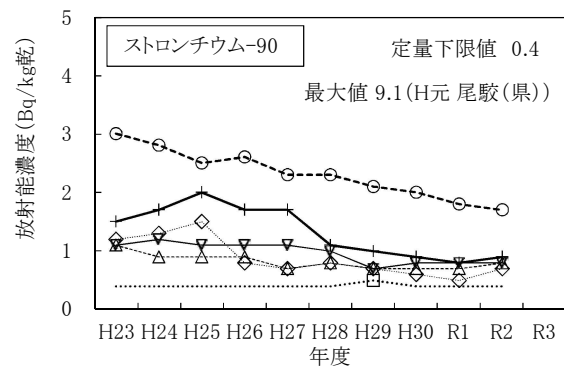
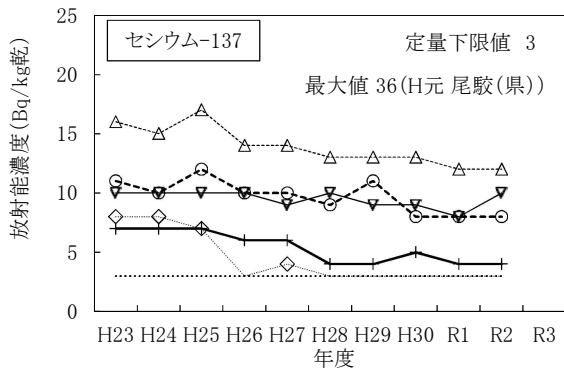


(凡例)

- ◆ 尾駱沼(県)
- △ 小川原湖
- 鷹架沼
- 尾駱沼(事業者)

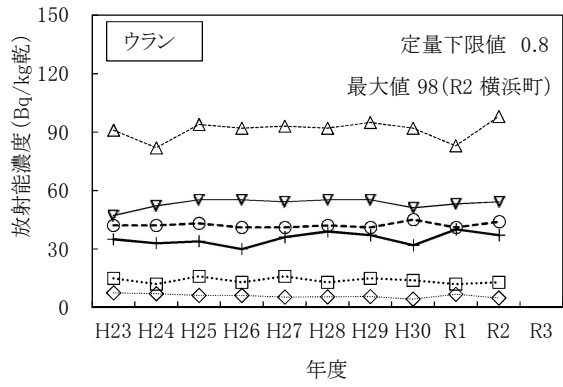
- ・キュリウム-244については、これまでの測定値が全てNDであったためグラフの作成を省略した。
- ・マーカの無い箇所はNDを示す。
- ・ウランはウラン-234、ウラン-235及びウラン-238の合計。

(3) 表土中の放射能濃度の推移



(凡例)

- ◆ 尾駱沼(県)
- △ 横浜町
- ▽ 千樽
- 千歳平
- 尾駱沼(事業者)
- ⊕ 比較対照(青森市)

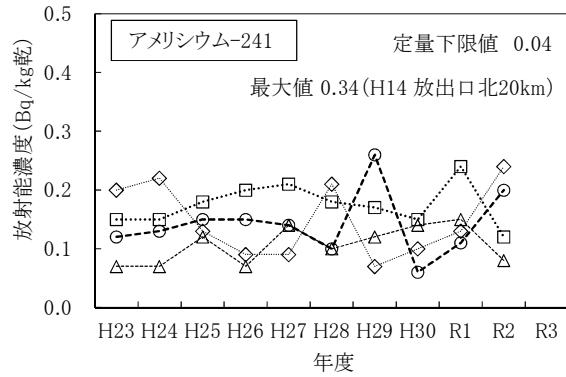
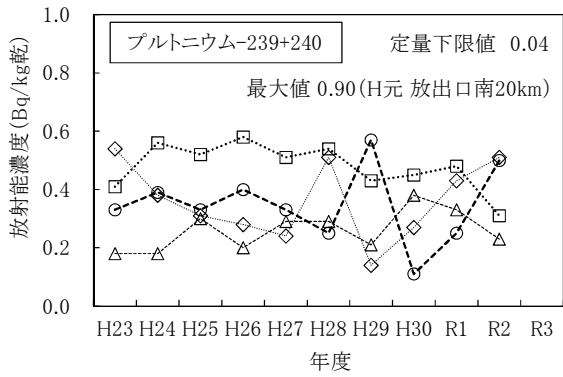


(凡例)

- ◇ 尾駿(県)
- △ 横浜町
- ▽ 千樽
- 千歳平
- 尾駿(事業者)
- +

- ・ヨウ素-129、プルトニウム-238及びキュリウム-244については、これまでの測定値が全てNDであったためグラフの作成を省略した。
- ・マーカ-の無い箇所はNDを示す。
- ・ウランはウラン-234、ウラン-235及びウラン-238の合計。
- ・尾駿(県)は、平成26年度に採取場所を変更している。
- ・比較対照(青森市)は、平成28年度に採取場所を変更している。

(4) 海底土中の放射能濃度の推移



(凡例)

- ◇ 放出口付近(県)
- △ 放出口南20km
- 放出口北20km
- 放出口付近(事業者)

- ・セシウム-137、ストロンチウム-90、プルトニウム-238、キュリウム-244については、これまでの測定値が全てNDであったためグラフの作成を省略した。

# 東 通 原 子 力 発 電 所



## 1. 青森県実施分測定結果

(1) 空間放射線量率測定結果

①モニタリングステーションによる空間放射線量率(NaI)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	平常の変動幅を外れた時間数 (単位:時間)	平常の変動幅を外れた原因と時間数 (単位:時間)		平常の変動幅	過去の測定値の範囲	過去の同一四半期の測定値の範囲	備考
							施設起因	降雨等				
小田野沢	4月	17	33	16	2.7	12	0	12	7~29 (18±11)	10~79	16~47 (18)	
	5月	17	41	16	2.6	5	0	5				
	6月	17	32	16	1.9	5	0	5				
	第1四半期	17	41	16	2.4	22	0	22				
老部	4月	16	33	15	2.9	14	0	14	5~27 (16±11)	8~84	15~44 (16)	
	5月	16	41	15	3.1	14	0	14				
	6月	16	48	15	3.2	13	0	13				
	第1四半期	16	48	15	3.1	41	0	41				
近川	4月	21	35	20	2.5	5	0	5	9~33 (21±12)	9~76	17~48 (21)	
	5月	21	39	20	2.6	8	0	8				
	6月	21	44	20	2.2	7	0	7				
	第1四半期	21	44	20	2.4	20	0	20				

- ・測定値は1時間値。
- ・測定時間数は3か月間で約2,200時間。
- ・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。
- ・「平常の変動幅」は、平成28~令和2年度の測定値の「平均値±(標準偏差の3倍)」。
- ・「過去の測定値の範囲」は、平成28~令和2年度の測定値の「最小値~最大値」。
- ・「過去の同一四半期の測定値の範囲」は、平成28~令和2年度の測定値のうち同一四半期の測定値の「最小値~最大値」。  
また、括弧内の数値は平均値。
- ・「施設起因」は、監視対象施設である東通原子力発電所に起因するもの。
- ・「降雨等」に分類する要因としては、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などが挙げられる。
- ・「施設起因」と「降雨等」の影響が同時に認められた場合は、その主たる原因に分類している。



②モニタリングポストによる空間放射線量率(NaI)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	平常の変動幅を外れた時間数 (単位:時間)	平常の変動幅を外れた原因と時間数 (単位:時間)		平常の変動幅	過去の測定値の範囲	過去の同一四半期の測定値の範囲	備考
							施設起因	降雨等				
砂子又	4月	21	36	20	2.9	13	0	13	10~32 (21±11)	12~93	19~48 (21)	
	5月	21	42	19	2.5	9	0	9				
	6月	21	48	19	2.7	10	0	10				
	第1四半期	21	48	19	2.7	32	0	32				
古野牛川	4月	20	34	18	2.6	13	0	13	8~30 (19±11)	9~84	18~43 (20)	
	5月	20	36	18	2.1	5	0	5				
	6月	19	44	18	2.4	8	0	8				
	第1四半期	20	44	18	2.4	26	0	26				
尻労	4月	20	33	19	2.4	10	0	10	10~30 (20±10)	11~73	18~48 (20)	
	5月	20	39	19	2.3	8	0	8				
	6月	20	40	19	2.5	11	0	11				
	第1四半期	20	40	19	2.4	29	0	29				
桜木町	4月	17	29	15	2.4	0	0	0	3~29 (16±13)	5~101	15~64 (17)	
	5月	17	45	15	3.3	13	0	13				
	6月	16	42	15	2.8	14	0	14				
	第1四半期	17	45	15	2.9	27	0	27				
関根	4月	22	36	21	2.3	10	0	10	12~32 (22±10)	12~92	21~53 (22)	
	5月	22	39	21	2.3	11	0	11				
	6月	22	51	21	2.7	12	0	12				
	第1四半期	22	51	21	2.4	33	0	33				
吹越	4月	22	36	21	2.1	2	0	2	13~33 (23±10)	13~66	21~46 (23)	
	5月	22	39	20	2.0	3	0	3				
	6月	21	40	21	1.8	5	0	5				
	第1四半期	22	40	20	2.0	10	0	10				
泊	4月	22	42	20	3.5	8	0	8	6~36 (21±15)	9~91	19~61 (22)	
	5月	22	50	20	3.5	7	0	7				
	6月	21	41	20	2.0	4	0	4				
	第1四半期	22	50	20	3.1	19	0	19				
尾駸	4月	23	44	21	2.6	3	0	3	7~37 (22±15)	8~88	20~57 (23)	
	5月	23	44	21	2.8	6	0	6				
	6月	22	43	21	2.3	5	0	5				
	第1四半期	23	44	21	2.6	14	0	14				

- ・測定値は1時間値。
- ・測定時間数は3か月間で約2,200時間。
- ・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。
- ・「平常の変動幅」は、平成28~令和2年度の測定値の「平均値±(標準偏差の3倍)」。
- ・「過去の測定値の範囲」は、平成28~令和2年度の測定値の「最小値~最大値」。
- ・「過去の同一四半期の測定値の範囲」は、平成28~令和2年度の測定値のうち同一四半期の測定値の「最小値~最大値」。
- また、括弧内の数値は平均値。
- ・「施設起因」は、監視対象施設である東通原子力発電所に起因するもの。
- ・「降雨等」に分類する要因としては、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などが挙げられる。
- ・「施設起因」と「降雨等」の影響が同時に認められた場合は、その主たる原因に分類している。

(2) 積算線量測定結果(RPLD)

測定地点		測定期間(日数)	3か月 積算線量 ( $\mu$ Gy/91日)	平常の変動幅 ( $\mu$ Gy/91日)	備考
東通村	小 田 野 沢	R3. 3.25~R3. 6.24 (91)	88	84 ~ 92	
	老 部	"	88	82 ~ 91	
	砂 子 又	"	93	88 ~ 98	
	古 野 牛 川	"	92	87 ~ 97	
	尻 芳	"	93	87 ~ 97	
	大 平 滝 浄 水 場	"	94	75 ~ 97	
	猿 ケ 森	"	107	89 ~ 110	
	目 名	"	98	82 ~ 99	
むつ市	近 川	"	97	87 ~ 99	
	桜 木 町	"	90	77 ~ 94	
	関 根	"	97	87 ~ 99	
	一 里 小 屋	"	101	93 ~ 104	
	美 付	"	93	87 ~ 95	
横浜町	吹 越	"	90	86 ~ 94	
	有 畑	"	109	98 ~ 113	
六ヶ所村	泊	"	93	86 ~ 99	
	尾 駁	"	97	83 ~ 104	
	二 又	"	94	87 ~ 98	

- ・測定値は宇宙線の一部及び自己照射の線量を含む。
  - ・「3か月積算線量」は測定期間の測定値を91日当たりに換算し整数で示した値。
  - ・「平常の変動幅」は平成28～令和2年度の3か月積算線量の測定値の「最小値～最大値」。
- ただし、美付における平成29年度第4四半期の測定値は平常の変動幅の設定に用いていない(平成29年度報付5参照)。

## (3)大気浮遊じん中の全β放射能測定結果

(単位:Bq/m<sup>3</sup>)

測定局	採取期間	検体数	平均	最大	最小	備考
小田野沢	R3. 4. 1～R3. 5. 6	279	1.0	3.5	0.18	
	R3. 5. 6～R3. 6. 1	207	0.95	3.2	0.21	
	R3. 6. 1～R3. 7. 1	232	1.1	6.5	0.10	
	第 1 四 半 期	718	1.0	6.5	0.10	
老 部	R3. 4. 1～R3. 5. 6	279	0.91	2.2	0.18	
	R3. 5. 6～R3. 6. 1	200	0.90	2.8	0.17	
	R3. 6. 1～R3. 7. 1	239	0.95	6.7	0.087	
	第 1 四 半 期	718	0.92	6.7	0.087	
近 川	R3. 4. 1～R3. 5. 6	279	1.0	3.4	0.16	
	R3. 5. 6～R3. 6. 1	201	1.1	8.9	0.15	
	R3. 6. 1～R3. 7. 1	238	1.1	6.2	0.087	
	第 1 四 半 期	718	1.1	8.9	0.087	

- ・ 3時間集じん直後、10分間測定。
- ・ 平均値の算出においては測定値に検出限界以下のものが含まれる場合、そのときの検出限界値を測定値として算出し平均値に「<」を付ける。すべての測定値が検出限界以下の場合、平均値も検出限界以下とし「\*」と表示する。

## (4)大気中のヨウ素-131測定結果

(単位:mBq/m<sup>3</sup>)

測定局	採取期間	検体数	平均	最大	最小	備考
小田野沢	R3. 3.29～R3. 5. 3	5	ND	ND	ND	
	R3. 5. 3～R3. 5.31	4	ND	ND	ND	
	R3. 5.31～R3. 6.28	4	ND	ND	ND	
	第 1 四 半 期	13	ND	ND	ND	
老 部	R3. 3.29～R3. 5. 3	5	ND	ND	ND	
	R3. 5. 3～R3. 5.31	4	ND	ND	ND	
	R3. 5.31～R3. 6.28	4	ND	ND	ND	
	第 1 四 半 期	13	ND	ND	ND	
近 川	R3. 3.29～R3. 5. 3	5	ND	ND	ND	
	R3. 5. 3～R3. 5.31	4	ND	ND	ND	
	R3. 5.31～R3. 6.28	4	ND	ND	ND	
	第 1 四 半 期	13	ND	ND	ND	

- ・ 168時間捕集直後、1時間測定。

(5) 環境試料中の放射能測定結果

試料名	採取地点	採取年月日	単位	機 器					
				<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs
大気浮遊じん	小 田 野 沢	R3. 4. 1～ R3. 5. 6	mBq/m <sup>3</sup>	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R3. 5. 6～ R3. 6. 1		ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R3. 6. 1～ R3. 7. 1		ND	ND	ND	ND	ND	ND
	老 部	R3. 4. 1～ R3. 5. 6		ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R3. 5. 6～ R3. 6. 1		ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R3. 6. 1～ R3. 7. 1		ND	ND	ND	ND	ND	ND
	近 川	R3. 4. 1～ R3. 5. 6		ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R3. 5. 6～ R3. 6. 1		ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R3. 6. 1～ R3. 7. 1		ND	ND	ND	ND	ND	ND
降 下 物	砂 子 又	R3. 3.31～ R3. 4.30	Bq/m <sup>2</sup>	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R3. 4.30～ R3. 5.31		ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R3. 5.31～ R3. 6.30		ND	ND	ND	ND	ND	ND
河 川 水	小 老 部 川 上 流	R3. 4.27	mBq/L トリチウム については Bq/L	ND	ND	ND	ND	ND	ND
水 道 水	老 部	R3. 4.27		ND	ND	ND	ND	ND	ND
	砂 子 又	R3. 4.27		ND	ND	ND	ND	ND	ND
	一 里 小 屋	R3. 4.27		ND	ND	ND	ND	ND	ND
有 畑	R3. 4.27	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
ア ブ ラ ナ	大 豆 田	R3. 4.22	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND	ND
牛 乳 (原 乳)	豊 栄	R3. 4. 8	Bq/L	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	東 栄	R3. 4. 8		ND	ND	ND	ND	ND	ND
牧 草	小 田 野 沢	R3. 5.25	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	野 牛	R3. 5.25		ND	ND	ND	ND	ND	ND
松 葉	小 田 野 沢	R3. 5.11		ND	ND	ND	ND	ND	ND
コ ウ ナ ゴ	東通村太平洋側海域	R3. 4.27		ND	ND	ND	ND	ND	ND
ウ ス メ バ ル	東通村太平洋側海域	R3. 4.21		ND	ND	ND	ND	ND	ND
カ レ イ	東通村太平洋側海域	R3. 4.21		ND	ND	ND	ND	ND	ND
ホ タ テ	横 浜 町 前 面 海	R3. 6.23		ND	ND	ND	ND	ND	ND

・機器分析によるγ線放出核種、<sup>3</sup>H及び<sup>90</sup>Srの測定値は、試料採取日に補正した値。

・ホタテ(横浜町前面海域)は原子燃料サイクル施設環境放射線等調査の試料を兼ねる。

分 析					放射化学分析				備 考
<sup>7</sup> Be	<sup>40</sup> K	<sup>214</sup> Bi	<sup>228</sup> Ac	<sup>131</sup> I	<sup>3</sup> H	<sup>90</sup> Sr	<sup>238</sup> Pu	<sup>239+240</sup> Pu	
4.3	—	—	—	—	—	—	—	—	
2.7	—	—	—	—	—	—	—	—	
2.5	—	—	—	—	—	—	—	—	
4.5	—	—	—	—	—	—	—	—	
2.6	—	—	—	—	—	—	—	—	
2.7	—	—	—	—	—	—	—	—	
4.2	—	—	—	—	—	—	—	—	
2.6	—	—	—	—	—	—	—	—	
2.6	—	—	—	—	—	—	—	—	
240	ND	—	—	—	—	—	—	—	
170	ND	—	—	—	—	—	—	—	
160	ND	—	—	—	—	—	—	—	
ND	ND	—	—	—	ND	—	—	—	
ND	ND	—	—	—	ND	—	—	—	
ND	ND	—	—	—	ND	—	—	—	
ND	ND	—	—	—	ND	—	—	—	
ND	110	—	—	ND	—	0.10	—	—	
ND	52	—	—	ND	—	ND	—	—	
ND	54	—	—	ND	—	ND	—	—	
26	76	—	—	ND	—	—	—	—	チモシー、オーチャート®グラス、クローバー
19	110	—	—	—	—	—	—	—	オーチャート®グラス
66	62	—	—	—	—	0.05	—	—	
ND	140	—	—	—	—	ND	—	—	
ND	130	—	—	—	—	ND	—	—	
ND	130	—	—	—	—	ND	—	—	
ND	91	—	—	—	—	ND	ND	ND	

## (6) 気象観測結果

① 風速・気温・湿度・降水量・積雪深

測定局	測定月	風速(m/sec)		気温(°C)			湿度(%)		降水量(mm)	積雪深(cm)				
		平均	最大	平均	最高	最低	平均	最小		平均	最大	最小	過去の値	
													平均	最大
小田野沢	4月	—	—	—	—	—	—	—	116.5	0	0	0	0	1
	5月	—	—	—	—	—	—	—	111.5	0	0	0	0	0
	6月	—	—	—	—	—	—	—	91.0	0	0	0	0	0
	第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	319.0	0	0	0	0	1
老部	4月	2.3	6.3	8.3	19.8	-0.8	67	22	133.5	0	0	0	0	4
	5月	2.0	6.5	12.7	21.5	5.6	79	35	119.5	0	0	0	0	0
	6月	2.0	8.2	16.9	26.4	9.1	85	44	111.0	0	0	0	0	0
	第1四半期	2.1	8.2	12.6	26.4	-0.8	77	22	364.0	0	0	0	0	4
近川	4月	1.5	5.3	8.5	18.4	-1.3	67	19	102.0	0	0	0	0	13
	5月	1.4	5.8	13.4	25.4	4.5	78	23	94.0	0	0	0	0	0
	6月	1.5	6.6	17.9	30.5	9.8	81	46	51.0	0	0	0	0	0
	第1四半期	1.5	6.6	13.3	30.5	-1.3	75	19	247.0	0	0	0	0	13
砂子又	4月	—	—	—	—	—	—	—	130.0	0	0	0	0	7
	5月	—	—	—	—	—	—	—	91.5	0	0	0	0	0
	6月	—	—	—	—	—	—	—	87.0	0	0	0	0	0
	第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	308.5	0	0	0	0	7
古野牛川	4月	—	—	—	—	—	—	—	121.0	0	0	0	0	3
	5月	—	—	—	—	—	—	—	89.0	0	0	0	0	0
	6月	—	—	—	—	—	—	—	93.5	0	0	0	0	0
	第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	303.5	0	0	0	0	3
尻労	4月	—	—	—	—	—	—	—	138.0	0	0	0	0	1
	5月	—	—	—	—	—	—	—	104.0	0	0	0	0	0
	6月	—	—	—	—	—	—	—	99.5	0	0	0	0	0
	第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	341.5	0	0	0	0	1

測定局	測定月	風速(m/sec)		気温(°C)			湿度(%)		降水量(mm)	積雪深(cm)				
		平均	最大	平均	最高	最低	平均	最小		平均	最大	最小	過去の値	
													平均	最大
桜木町	4月	—	—	—	—	—	—	—	120.5	0	0	0	0	7
	5月	—	—	—	—	—	—	—	131.5	0	0	0	0	0
	6月	—	—	—	—	—	—	—	104.5	0	0	0	0	0
	第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	356.5	0	0	0	0	7
関根	4月	—	—	—	—	—	—	—	118.0	0	0	0	0	5
	5月	—	—	—	—	—	—	—	102.5	0	0	0	0	0
	6月	—	—	—	—	—	—	—	114.0	0	0	0	0	0
	第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	334.5	0	0	0	0	5
吹越	4月	—	—	—	—	—	—	—	82.0	0	0	0	0	11
	5月	—	—	—	—	—	—	—	81.5	0	0	0	0	0
	6月	—	—	—	—	—	—	—	44.0	0	0	0	0	0
	第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	207.5	0	0	0	0	11
泊	4月	—	—	—	—	—	—	—	154.5	0	7	0	0	3
	5月	—	—	—	—	—	—	—	153.5	0	0	0	0	0
	6月	—	—	—	—	—	—	—	102.5	0	0	0	0	0
	第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	410.5	0	7	0	0	3
尾駸	4月	—	—	—	—	—	—	—	98.5	0	2	0	0	9
	5月	—	—	—	—	—	—	—	106.5	0	0	0	0	0
	6月	—	—	—	—	—	—	—	63.0	0	0	0	0	0
	第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	268.0	0	2	0	0	9

- ・測定値は「地上気象観測指針(平成14年気象庁)」に基づく1時間値。
- ・積雪深における「過去の値」は、前年度までの5年間(平成28～令和2年度)の同一時期の平均値及び最大値。

②大気安定度出現頻度表

単位:時間(括弧内は%)

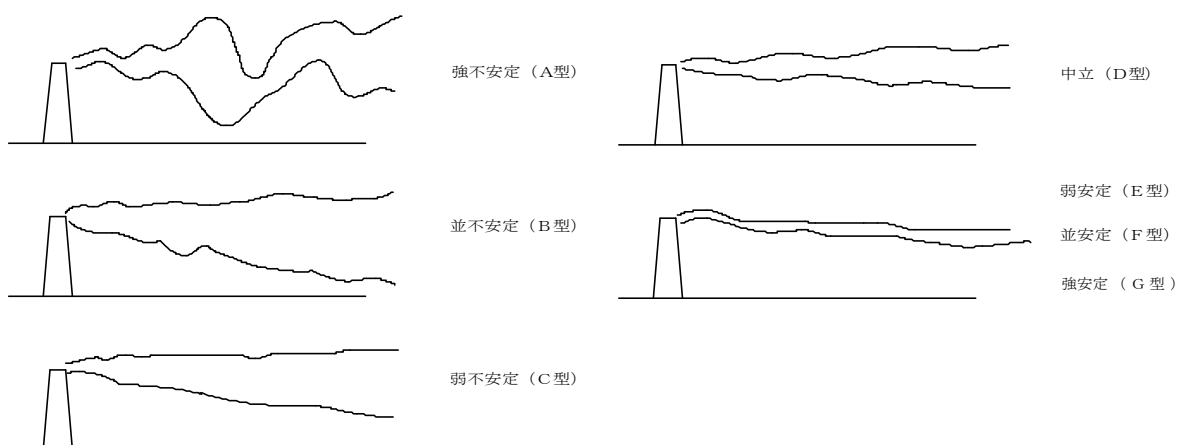
測定局	分類 測定月	A	A-B	B	B-C	C	C-D	D	E	F	G	計	備考
老部	4月	8 (1.1)	59 (8.2)	94 (13.1)	23 (3.2)	60 (8.3)	12 (1.7)	243 (33.8)	26 (3.6)	46 (6.4)	149 (20.7)	720 (100)	
	5月	17 (2.3)	68 (9.1)	100 (13.4)	13 (1.7)	47 (6.3)	7 (0.9)	332 (44.6)	26 (3.5)	30 (4.0)	104 (14.0)	744 (100)	
	6月	46 (6.4)	72 (10.0)	65 (9.0)	8 (1.1)	49 (6.8)	1 (0.1)	363 (50.4)	11 (1.5)	11 (1.5)	94 (13.1)	720 (100)	
	第1 四半期	71 (3.3)	199 (9.1)	259 (11.9)	44 (2.0)	156 (7.1)	20 (0.9)	938 (42.9)	63 (2.9)	87 (4.0)	347 (15.9)	2,184 (100)	
近川	4月	27 (3.8)	83 (11.5)	99 (13.8)	11 (1.5)	20 (2.8)	2 (0.3)	237 (32.9)	10 (1.4)	27 (3.8)	204 (28.3)	720 (100)	
	5月	50 (6.7)	77 (10.3)	79 (10.6)	9 (1.2)	16 (2.2)	1 (0.1)	345 (46.4)	2 (0.3)	8 (1.1)	157 (21.1)	744 (100)	
	6月	75 (10.4)	88 (12.2)	61 (8.5)	13 (1.8)	21 (2.9)	4 (0.6)	302 (41.9)	8 (1.1)	3 (0.4)	145 (20.1)	720 (100)	
	第1 四半期	152 (7.0)	248 (11.4)	239 (10.9)	33 (1.5)	57 (2.6)	7 (0.3)	884 (40.5)	20 (0.9)	38 (1.7)	506 (23.2)	2,184 (100)	

・「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針(平成13年3月 原子力安全委員会)」に基づく1時間値を用いて分類。

大気安定度分類表

風速(U) m/s	日射量(T) kW/m <sup>2</sup>				放射収支量(Q) kW/m <sup>2</sup>		
	T ≥ 0.60	0.60 > T ≥ 0.30	0.30 > T ≥ 0.15	0.15 > T	Q ≥ -0.020	-0.020 > Q ≥ -0.040	-0.040 > Q
U < 2	A	A-B	B	D	D	G	G
2 ≤ U < 3	A-B	B	C	D	D	E	F
3 ≤ U < 4	B	B-C	C	D	D	D	E
4 ≤ U < 6	C	C-D	D	D	D	D	D
6 ≤ U	C	D	D	D	D	D	D

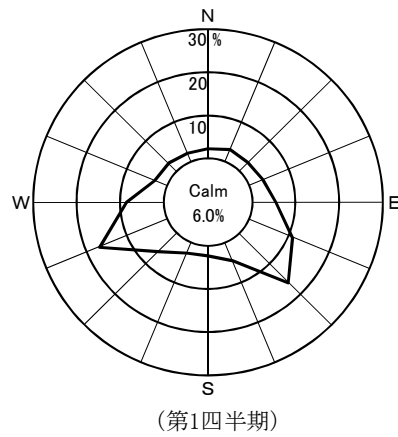
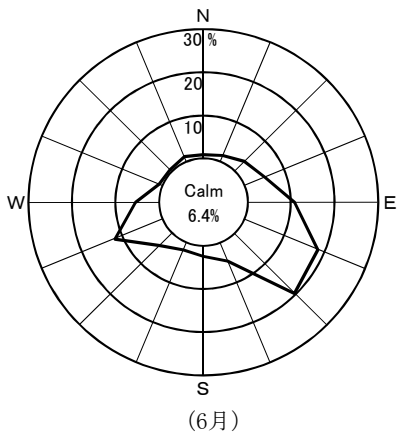
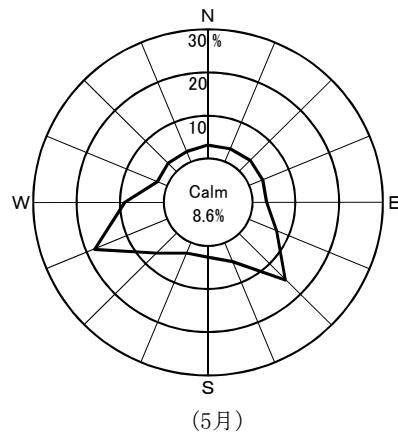
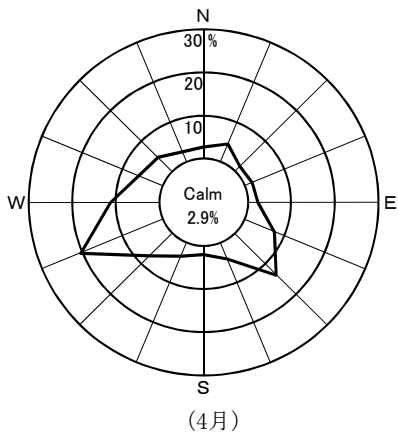
発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針 (平成13年3月 原子力安全委員会)



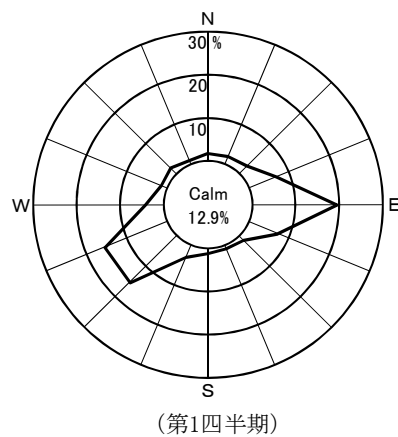
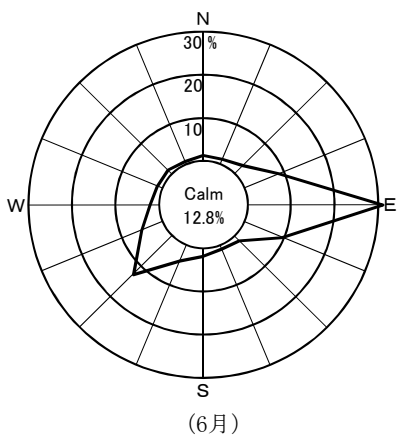
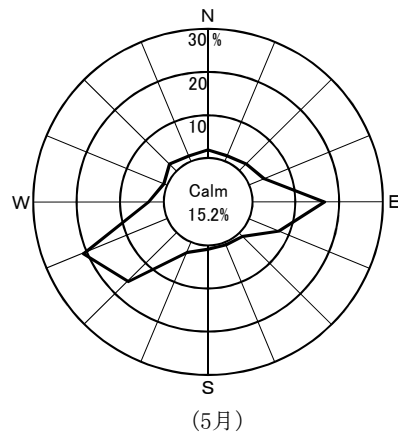
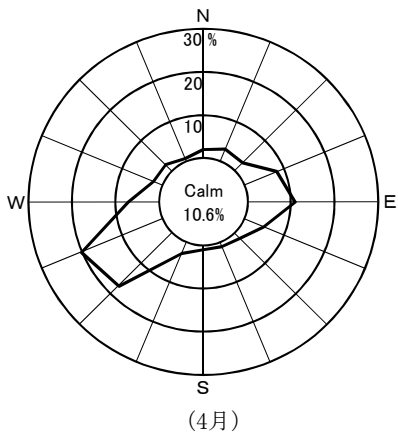
大気安定度と煙の型との模式図



③ 風配図  
老部



近川



Calm: 風速0.5 m/sec未満



## 2. 事業者実施分測定結果

(1)空間放射線量率測定結果

①モニタリングポストによる空間放射線量率(NaI)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	平常の変動幅を外れた時間数(単位:時間)	平常の変動幅を外れた原因と時間数(単位:時間)		平常の変動幅	過去の測定値の範囲	過去の同一四半期の測定値の範囲	備考
							施設起因	降雨等				
小川町	4月	16	30	14	2.4	12	0	12	7~25 (16±9)	11~63	14~43 (16)	
	5月	16	32	15	2.2	12	0	12				
	6月	16	38	14	2.2	11	0	11				
	第1四半期	16	38	14	2.2	35	0	35				
林ノ脇	4月	21	35	19	2.2	9	0	9	12~30 (21±9)	12~69	18~40 (20)	
	5月	21	35	19	1.9	3	0	3				
	6月	21	43	20	2.0	9	0	9				
	第1四半期	21	43	19	2.1	21	0	21				

- ・測定値は1時間値。
- ・測定時間数は3か月間で約2,200時間。
- ・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。
- ・「平常の変動幅」は、平成28～令和2年度の測定値の「平均値±(標準偏差の3倍)」。
- ・「過去の測定値の範囲」は、平成28～令和2年度の測定値の「最小値～最大値」。
- ・「過去の同一四半期の測定値の範囲」は、平成28～令和2年度の測定値のうち同一四半期の測定値の「最小値～最大値」。
- また、括弧内の数値は平均値。
- ・「施設起因」は、監視対象施設である東通原子力発電所に起因するもの。
- ・「降雨等」に分類する要因としては、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などが挙げられる。
- ・「施設起因」と「降雨等」の影響が同時に認められた場合は、その主たる原因に分類している。

(2)積算線量測定結果(RPLD)

測定地点		測定期間 (日数)	3か月積算線量 ( $\mu$ Gy/91日)	平常の変動幅 ( $\mu$ Gy/91日)	備考
東通村	白 糠	R3. 3.25~R3. 6.24 (91)	86	80 ~ 91	
	上 田 代	"	95	84 ~ 101	
	上 田 屋	"	96	89 ~ 101	
	蒲 野 沢	"	93	85 ~ 97	
むつ市	小 川 町	"	86	84 ~ 90	
横浜町	林 ノ 脇	"	94	89 ~ 98	

- ・測定値は宇宙線の一部及び自己照射の線量を含む。
- ・「3か月積算線量」は測定期間の測定値を91日あたりに換算し整数で示した値。
- ・「平常の変動幅」は平成28~令和2年度の3か月積算線量の測定値の「最小値~最大値」。

### (3)環境試料中の放射能測定結果

試料名	採取地点	採取年月日	単位	機 器				
				<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>134</sup> Cs
大気浮遊じん	周辺監視区域境界付近(西側)	R3. 4. 1～ R3. 5. 6	mBq/m <sup>3</sup>	ND	ND	ND	ND	ND
		R3. 5. 6～ R3. 6. 1		ND	ND	ND	ND	ND
		R3. 6. 1～ R3. 7. 1		ND	ND	ND	ND	ND
	周辺監視区域境界付近(南側)	R3. 4. 1～ R3. 5. 6		ND	ND	ND	ND	ND
		R3. 5. 6～ R3. 6. 1		ND	ND	ND	ND	ND
		R3. 6. 1～ R3. 7. 1		ND	ND	ND	ND	ND
降下物	周辺監視区域境界付近	R3. 3.31～ R3. 4.30	Bq/m <sup>2</sup>	ND	ND	ND	ND	ND
		R3. 4.30～ R3. 5.31		ND	ND	ND	ND	ND
		R3. 5.31～ R3. 6.30		ND	ND	ND	ND	ND
水道水	小田野沢 近川 泊	R3. 4. 2	mBq/L トリチウム については Bq/L	ND	ND	ND	ND	ND
		R3. 4. 2		ND	ND	ND	ND	ND
		R3. 4. 2		ND	ND	ND	ND	ND
牛乳(原乳)	斗南丘	R3. 4.14	Bq/L	ND	ND	ND	ND	ND
	鶏沢	R3. 4. 7		ND	ND	ND	ND	ND
牧草	斗南丘	R3. 5.20	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND
松葉	老部	R3. 5.19		ND	ND	ND	ND	ND
	上イタヤノ木	R3. 5.13		ND	ND	ND	ND	ND
海水	放水口付近	R3. 4.12	mBq/L トリチウム については Bq/L	ND	ND	ND	ND	ND
	放水口沖	R3. 4.12		ND	ND	ND	ND	ND
アイナメ	東通村太平洋側海域	R3. 6.10	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND
チガイソ	白糠	R3. 4.12		ND	ND	ND	ND	ND

・測定値は、試料採取日に補正した値。

分 析						放射化学分析		備 考
<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be	<sup>40</sup> K	<sup>214</sup> Bi	<sup>228</sup> Ac	<sup>131</sup> I	<sup>3</sup> H	<sup>90</sup> Sr	
ND	4.6	—	—	—	—	—	—	
ND	2.8	—	—	—	—	—	—	
ND	2.9	—	—	—	—	—	—	
ND	4.8	—	—	—	—	—	—	
ND	3.0	—	—	—	—	—	—	
ND	3.0	—	—	—	—	—	—	
ND	200	ND	—	—	—	—	—	
ND	170	ND	—	—	—	—	—	
ND	200	ND	—	—	—	—	—	
ND	ND	ND	—	—	—	ND	—	
ND	ND	ND	—	—	—	ND	—	
ND	ND	ND	—	—	—	ND	—	
ND	ND	50	—	—	ND	—	ND	
ND	ND	51	—	—	ND	—	ND	
ND	10	160	—	—	—	—	—	チモシー
ND	63	61	—	—	ND	—	2.2	
ND	62	61	—	—	—	—	0.70	
ND	ND	—	—	—	—	ND	—	
ND	ND	—	—	—	—	ND	—	
ND	ND	130	—	—	—	—	ND	
ND	ND	210	—	—	—	—	ND	

(4)気象観測結果

①降水量・積雪深

測定局	測定月	降水量 (mm)	積雪深(cm)				
			平均	最大	最小	過去の値	
						平均	最大
小川町	4月	124.5	0	0	0	0	4
	5月	107.0	0	0	0	0	0
	6月	78.5	0	0	0	0	0
	第1四半期	310.0	0	0	0	0	4
林ノ脇	4月	92.0	0	3	0	0	13
	5月	76.0	0	0	0	0	0
	6月	48.0	0	0	0	0	0
	第1四半期	216.0	0	3	0	0	13

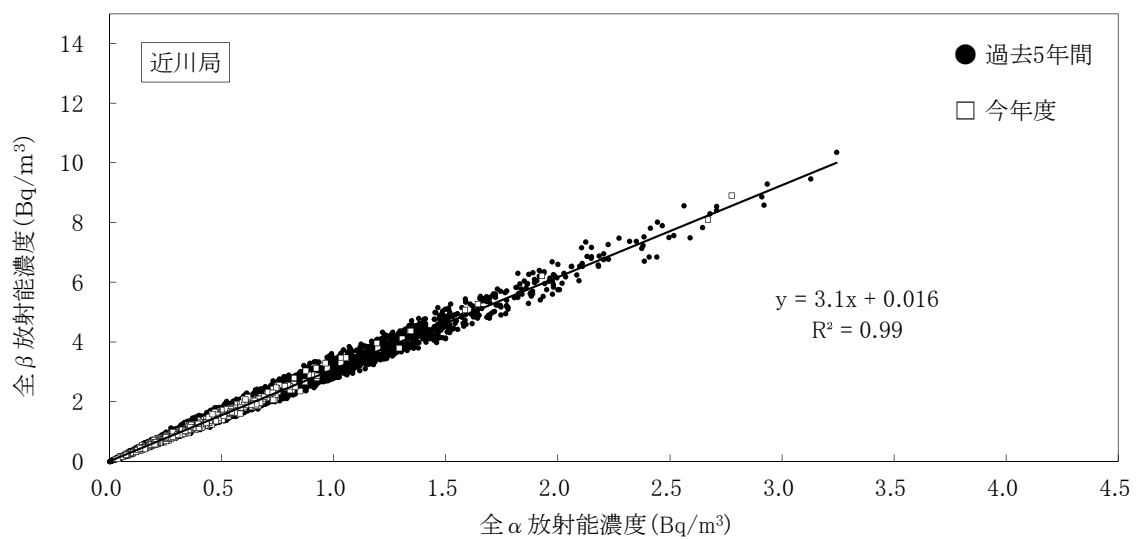
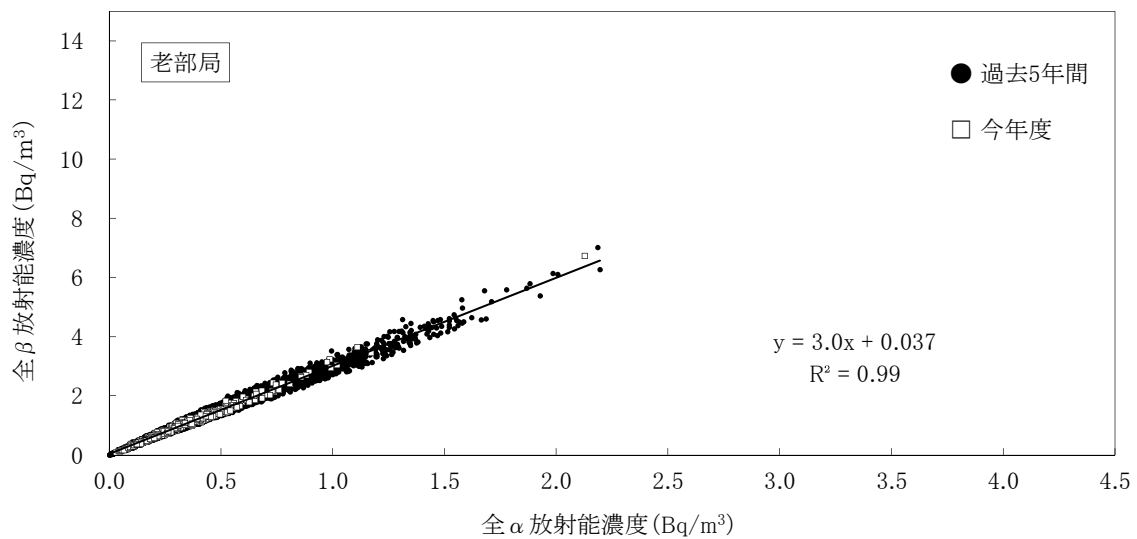
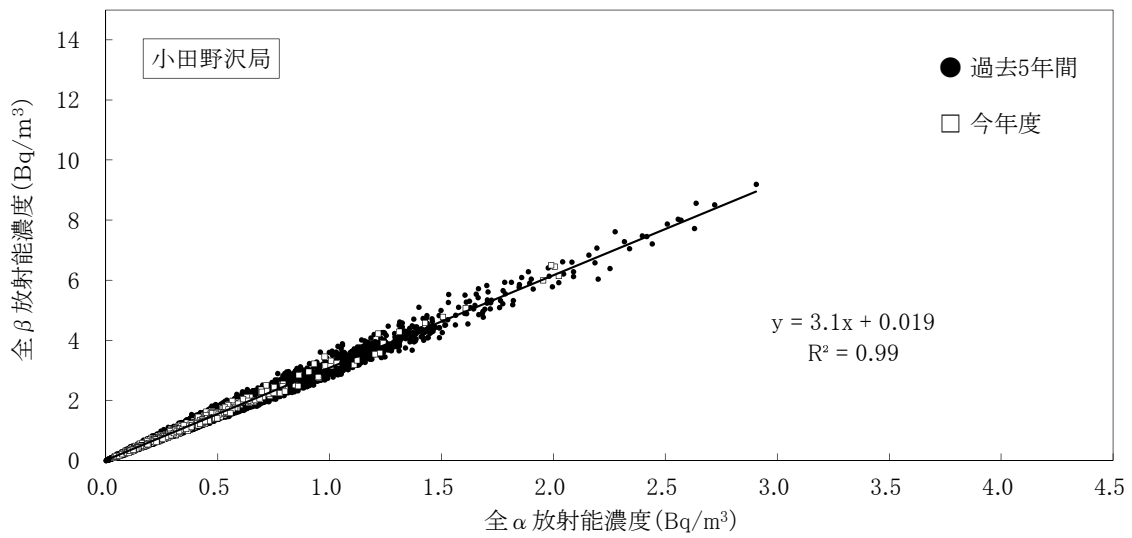
・測定値は「地上気象観測指針(平成14年気象庁)」に基づく1時間値。

・積雪深における「過去の値」は、前年度までの5年間(平成28～令和2年度)の同一時期の平均値及び最大値。

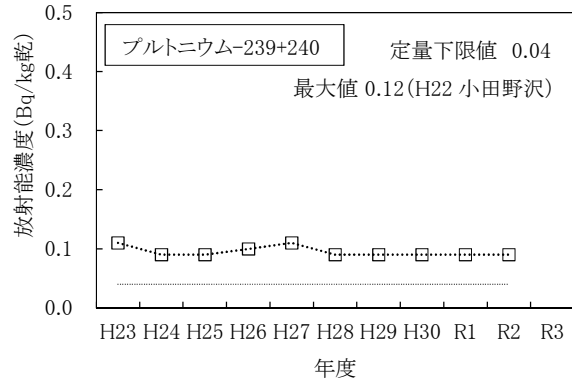
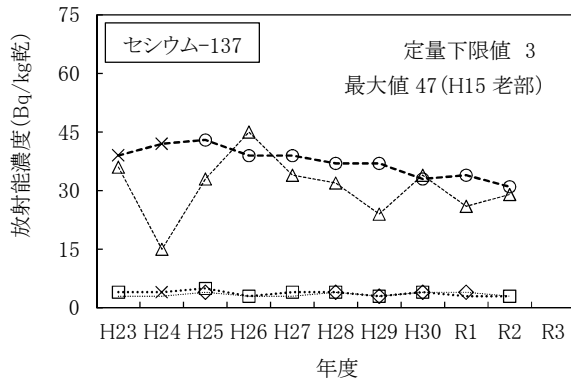


### 3. 参 考 图 表

(1) 大気浮遊じん中の全α放射能濃度及び全β放射能濃度の相関



(2) 表土中の放射能濃度の推移

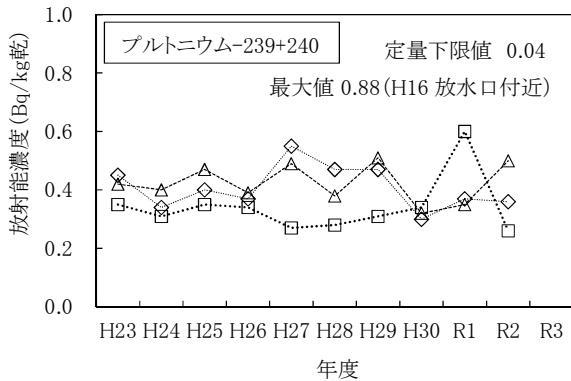


(凡例)

- ◇ 周辺監視区域境界付近
- △ 敷地境界付近
- 小田野沢
- 老部

- ・マーカーの無い箇所はNDを、「×」は、東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所の事故の影響が認められたことから、平常の変動幅の設定に用いないこととした測定値を示す。
- ・プルトニウム-238については、これまでの測定値がNDであったためグラフの作成を省略した。

(3) 海底土中の放射能濃度の推移



(凡例)

- ◇ 放水口付近(県)
- △ 放水口沖南2km
- 放水口沖北2km

- ・セシウム-137については、過去の測定値が全てNDであったためグラフの作成を省略した。
- ・プルトニウム-238については、これまでの測定値がNDであったためグラフの作成を省略した。



# リサイクル燃料備蓄センター



## 1. 青森県実施分測定結果

(1) 空間放射線量率測定結果

① モニタリングポストによる空間放射線量率 (NaI) 測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	平常の変動幅を外れた時間数 (単位:時間)	平常の変動幅を外れた原因と時間数 (単位:時間)		平常の変動幅	過去の測定値の範囲	過去の同一四半期の測定値の範囲	備考
							施設起因	降雨等				
関根	4月	22	36	21	2.3	10	-	10	12~32 (22±10)	12~92	21~53 (22)	
	5月	22	39	21	2.3	11	-	11				
	6月	22	51	21	2.7	12	-	12				
	第1四半期	22	51	21	2.4	33	-	33				

- ・測定値は1時間値。
- ・測定時間数は3か月間で約2,200時間。
- ・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。
- ・「平常の変動幅」は、平成28～令和2年度の測定値の「平均値±(標準偏差の3倍)」。
- ・「過去の測定値の範囲」は、平成28～令和2年度の測定値の「最小値～最大値」。
- ・「過去の同一四半期の測定値の範囲」は、平成28～令和2年度の測定値のうち同一四半期の測定値の「最小値～最大値」。  
また、括弧内の数値は平均値。
- ・「施設起因」は、監視対象施設であるリサイクル燃料備蓄センターに起因するもの。ただし、施設が操業前であるため、表には「-」として記載している。
- ・「降雨等」に分類する要因としては、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などが挙げられる。

(参考) モニタリングポストによる空間放射線量率 (電離箱) 測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	備考
関根	4月	52	67	50	2.8	
	5月	53	68	49	2.6	
	6月	52	82	50	2.9	
	第1四半期	52	82	49	2.8	

- ・測定値は1時間値。
- ・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含む。



## (2) 積算線量測定結果(RPLD)

測定地点		測定期間(日数)	3か月積算線量 ( $\mu$ Gy/91日)	平常の変動幅 ( $\mu$ Gy/91日)	備考
むつ市	関根	R3. 3.25~R3. 6.24 (91)	97	87 ~ 99	
	水川目	〃	91	81 ~ 94	
	美付	〃	93	87 ~ 95	
	浜関根	〃	98	91 ~ 100	
	比較対照 (むつ市川内町)	〃	101	85 ~ 104	

- ・測定値は宇宙線の一部及び自己照射の線量を含む。
- ・「3か月積算線量」は測定期間の測定値を91日当たりに換算し整数で示した値。
- ・「平常の変動幅」は平成28～令和2年度の3か月積算線量の測定値の「最小値～最大値」。  
ただし、美付における平成29年度第4四半期の測定値は平常の変動幅の設定に用いていない(平成29年度報 付5参照)。

## (3) 環境試料中の放射能測定結果

試料名	採取地点	採取年月日	単位	機器分析										備考
				<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be	<sup>40</sup> K	<sup>214</sup> Bi	<sup>228</sup> Ac	
松葉	浜ノ平	R3. 5.13	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND	ND	57	66	—	—	
	比較対照 (むつ市川内町)	R3. 5.11		ND	ND	ND	ND	ND	67	72	—	—		

- ・測定値は試料採取日に補正した値。

## (4) 気象観測結果

### ①降水量・積雪深

測定局	測定月	降水量 (mm)	積雪深(cm)				
			平均	最大	最小	過去の値	
						平均	最大
関根	4月	118.0	0	0	0	0	5
	5月	102.5	0	0	0	0	0
	6月	114.0	0	0	0	0	0
	第1四半期	334.5	0	0	0	0	5

- ・測定値は「地上気象観測指針(平成14年気象庁)」に基づく1時間値。
- ・積雪深における「過去の値」は、前年度までの5年間(平成28～令和2年度)の同一時期の平均値及び最大値。



## 2. 事業者実施分測定結果

(1)空間放射線量率測定結果

①モニタリングポストによる空間放射線量率(NaI)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	平常の変動幅を外れた時間数 (単位:時間)	平常の変動幅を外れた原因と時間数 (単位:時間)		平常の変動幅	過去の測定値の範囲	過去の同一四半期の測定値の範囲	備考
							施設起因	降雨等				
美付	4月	20	36	18	2.8	12	-	12	6~32 (19±13)	7~92	18~52 (20)	
	5月	20	39	18	2.5	8	-	8				
	6月	20	48	18	2.7	10	-	10				
	第1四半期	20	48	18	2.7	30	-	30				

- ・測定値は1時間値。
- ・測定時間数は3か月間で約2,200時間。
- ・測定値は3MeVを超える高エネルギー成分を含まない。
- ・「平常の変動幅」は、平成28～令和2年度の測定値の「平均値±(標準偏差の3倍)」。
- ・「過去の測定値の範囲」は、平成28～令和2年度の測定値の「最小値～最大値」。
- ・「過去の同一四半期の測定値の範囲」は、平成28～令和2年度の測定値のうち同一四半期の測定値の「最小値～最大値」。  
また、括弧内の数値は平均値。
- ・「施設起因」は、監視対象施設であるリサイクル燃料備蓄センターに起因するもの。ただし、施設が操業前であるため、表には「-」として記載している。
- ・「降雨等」に分類する要因としては、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などが挙げられる。

(参考)モニタリングポストによる空間放射線量率(電離箱)測定結果 (単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	備考
美付	4月	55	71	53	2.9	
	5月	55	74	53	2.5	
	6月	55	82	53	2.7	
	第1四半期	55	82	53	2.8	

- ・測定値は1時間値。
- ・測定値は3MeVを超える高エネルギー成分を含む。

## (2) 積算線量測定結果(RPLD)

測定地点		測定期間(日数)	3か月積算線量 ( $\mu$ Gy/91日)	平常の変動幅 ( $\mu$ Gy/91日)	備考
むつ市	美付	R 3. 3.25 ~ R 3. 6.24 (91)	94	84~100	
東通村	石持	〃	92	84~97	
	大利	〃	88	77~91	

- ・測定値は宇宙線の一部及び自己照射の線量を含む。
  - ・「3か月積算線量」は測定期間の測定値を91日当たりに換算し整数で示した値。
  - ・「平常の変動幅」は、平成28～令和2年度の3か月積算線量の測定値の「最小値～最大値」。
- ただし、美付における平成29年度第4四半期の測定値は平常の変動幅の設定に用いていない(平成29年度報 付5参照)。

## (3) 環境試料中の放射能測定結果

試料名	採取地点	採取年月日	単位	機器分析										備考
				<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be	<sup>40</sup> K	<sup>214</sup> Bi	<sup>228</sup> Ac	
松葉	美付	R3.5.11	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND	ND	52	67	-	-	

- ・測定値は試料採取日に補正した値。

## (4) 気象観測結果

### ① 降水量・積雪深

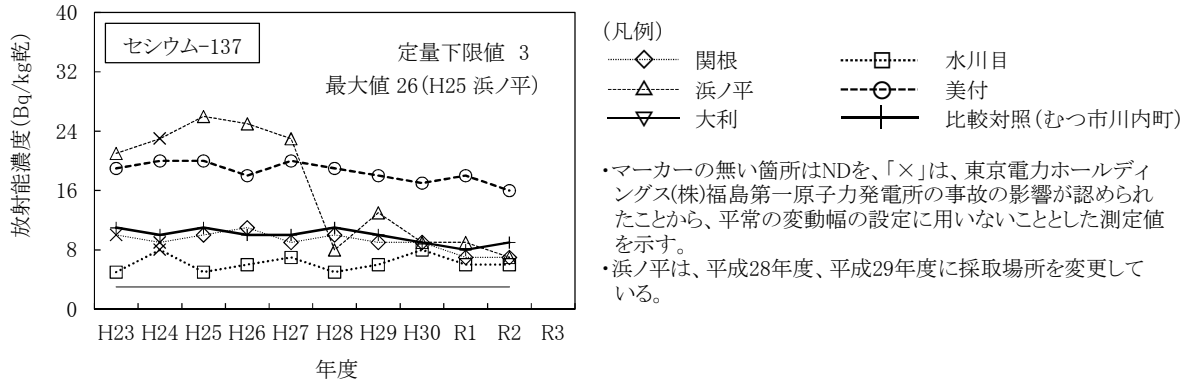
測定局	測定月	降水量 (mm)	積雪深(cm)				
			平均	最大	最小	過去の値	
						平均	最大
美付	4月	106.0	0	0	0	0	2
	5月	97.0	0	0	0	0	0
	6月	99.5	0	0	0	0	0
	第1四半期	302.5	0	0	0	0	2

- ・測定値は「地上気象観測指針(平成14年気象庁)」に基づく1時間値。
- ・積雪深における「過去の値」は、前年度までの5年間(平成28～令和2年度)の同一時期の平均値及び最大値。



### 3. 参 考 图 表

(1) 表土中の放射能濃度の推移





## 周辺監視区域内測定結果

# 原子燃料サイクル施設

## 1. モニタリングポスト測定結果

### (1) 再処理事業所モニタリングポスト

- ① 空間放射線量率(低線量率計)
- ② 大気中の気体状 $\beta$ 放射能(クリプトン-85換算)

### (2) 濃縮・埋設事業所モニタリングポスト

- ① 空間放射線量率(低線量率計)

## 2. 再処理工場の液体廃棄物の放出量測定結果

## 3. 再処理工場の気体廃棄物の放出量測定結果

## 4. 気象観測結果

- ① 風速
- ② 降水量
- ③ 大気安定度
- ④ 風配図

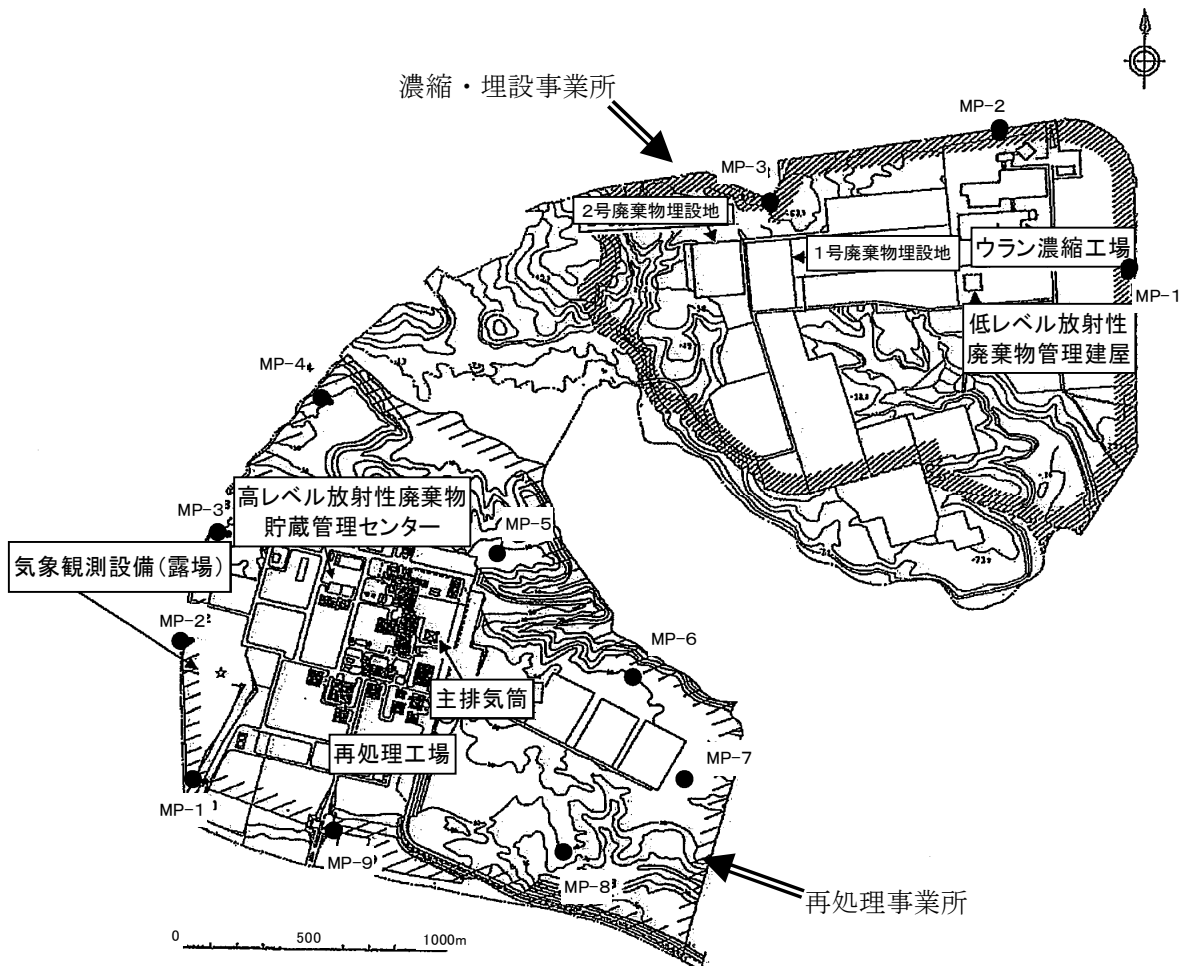


図 モニタリングポスト、主排気筒、気象観測設備配置図

## 1.モニタリングポスト測定結果

(1)再処理事業所モニタリングポスト(令和3年4月～令和3年6月)

①空間放射線量率(低線量率計)

(単位:nGy/h)

測定地点	測定月	平均	最大	最小	過去最大値	備考
MP-1	4月	17	33	15	98	
	5月	17	37	15		
	6月	16	36	15		
	第1四半期	16	37	15		
MP-2	4月	19	35	18	83	
	5月	19	39	18		
	6月	19	36	17		
	第1四半期	19	39	17		
MP-3	4月	16	33	15	74	
	5月	16	40	14		
	6月	16	35	15		
	第1四半期	16	40	14		
MP-4	4月	17	33	16	76	
	5月	17	42	15		
	6月	17	36	16		
	第1四半期	17	42	15		
MP-5	4月	17	30	15	73	
	5月	17	37	15		
	6月	16	34	15		
	第1四半期	17	37	15		
MP-6	4月	17	31	15	92	
	5月	17	38	15		
	6月	16	35	15		
	第1四半期	17	38	15		
MP-7	4月	18	33	16	117	
	5月	18	36	16		
	6月	17	33	16		
	第1四半期	17	36	16		
MP-8	4月	17	33	15	118	
	5月	17	35	15		
	6月	17	35	15		
	第1四半期	17	35	15		
MP-9	4月	18	32	16	102	
	5月	18	35	16		
	6月	17	36	16		
	第1四半期	18	36	16		

・3"φ×3"NaI(Tl)シンチレーション検出器(温度補償型)、連続測定(1時間値)、局舎屋根(地上約6 m)に設置。

・測定値は1時間値。

・測定値は、3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。

・「過去最大値」は、平成28～令和2年度までの測定値の最大値。

## ②大気中の気体状β放射能(クリプトン-85換算)

(単位:kBq/m<sup>3</sup>)

測定地点	測定月	平均	最大	最小	過去最大値	備考
MP-1	4月	ND	ND	ND	ND	定量下限値以上となった回数 :0回
	5月	ND	ND	ND		
	6月	ND	ND	ND		
	第1四半期	ND	ND	ND		
MP-2	4月	ND	ND	ND	ND	定量下限値以上となった回数 :0回
	5月	ND	ND	ND		
	6月	ND	ND	ND		
	第1四半期	ND	ND	ND		
MP-3	4月	ND	ND	ND	ND	定量下限値以上となった回数 :0回
	5月	ND	ND	ND		
	6月	ND	ND	ND		
	第1四半期	ND	ND	ND		
MP-4	4月	ND	ND	ND	ND	定量下限値以上となった回数 :0回
	5月	ND	ND	ND		
	6月	ND	ND	ND		
	第1四半期	ND	ND	ND		
MP-5	4月	ND	ND	ND	ND	定量下限値以上となった回数 :0回
	5月	ND	ND	ND		
	6月	ND	ND	ND		
	第1四半期	ND	ND	ND		
MP-6	4月	ND	ND	ND	ND	定量下限値以上となった回数 :0回
	5月	ND	ND	ND		
	6月	ND	ND	ND		
	第1四半期	ND	ND	ND		
MP-7	4月	ND	ND	ND	ND	定量下限値以上となった回数 :0回
	5月	ND	ND	ND		
	6月	ND	ND	ND		
	第1四半期	ND	ND	ND		
MP-8	4月	ND	ND	ND	ND	定量下限値以上となった回数 :0回
	5月	ND	ND	ND		
	6月	ND	ND	ND		
	第1四半期	ND	ND	ND		
MP-9	4月	ND	ND	ND	ND	定量下限値以上となった回数 :0回
	5月	ND	ND	ND		
	6月	ND	ND	ND		
	第1四半期	ND	ND	ND		

・プラスチックシンチレーション検出器(350×300×0.5 mm)、連続測定(1時間値)

・測定値は1時間値。

・NDは、定量下限値(2 kBq/m<sup>3</sup>)未満を示す。

・「過去最大値」は、平成28～令和2年度の測定値の最大値。

・平均値の算出においては、測定値に定量下限値未満のものが含まれる場合、定量下限値を測定値として算出し、平均値に「<」を付ける。すべての測定値が定量下限値未満の場合、平均値も定量下限値未満とし「ND」と示す。

## (2)濃縮・埋設事業所モニタリングポスト(令和3年4月～令和3年6月)

## ①空間放射線量率(低線量率計)

(単位:nGy/h)

測定地点	測定月	平均	最大	最小	過去最大値	備考
MP-1	4月	19	37	18	73	
	5月	19	44	17		
	6月	19	40	18		
	第1四半期	19	44	17		
MP-2	4月	23	38	22	66	
	5月	23	44	22		
	6月	23	36	22		
	第1四半期	23	44	22		
MP-3	4月	23	38	21	73	
	5月	23	45	21		
	6月	23	39	22		
	第1四半期	23	45	21		

- ・2"φ×2"Nal(Tl)シンチレーション検出器(温度補償型)、連続測定(1時間値)、地上約1.8 mに設置。
- ・測定値は1時間値。
- ・測定値は、3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。
- ・「過去最大値」は、平成28～令和2年度までの測定値の最大値。

2. 再処理工場の液体廃棄物の放出量測定結果（令和3年4月～令和3年6月）

（単位：Bq）

測定月	$^3\text{H}$	$^{129}\text{I}$	$^{131}\text{I}$	その他 $\alpha$ 線を放出する核種	その他 $\alpha$ 線を放出しない核種	備考
4月	$8.1 \times 10^8$ ( $7.5 \times 10^7$ )	*	*	*	*	
5月	$8.3 \times 10^8$ ( $7.4 \times 10^7$ )	*	*	*	*	
6月	*	*	—	—	*	
第1四半期	$1.6 \times 10^9$ ( $1.5 \times 10^8$ )	*	*	*	*	

- ・放出量は、低レベル廃液処理建屋と使用済燃料受入れ・貯蔵管理建屋からの放出を合わせた数値である。
- ・「その他 $\alpha$ 線を放出する核種」は全 $\alpha$ 、「その他 $\alpha$ 線を放出しない核種」は全 $\beta$ ( $\gamma$ )である。
- ・全 $\alpha$ 又は全 $\beta$ ( $\gamma$ )が検出限界以上の場合は、当該試料について核種別に測定した結果を用いて算出している。  
( )内の数値は、測定結果が有意値となったときの検出限界濃度(Bq/cm<sup>3</sup>)に排水量(cm<sup>3</sup>)を乗じて算出した放射能(Bq)を足し合わせた量である。
- ・「\*」は検出限界未満を示す。
- ・「—」は測定対象外を示す。
- ・6月は使用済燃料受入れ・貯蔵管理建屋からの放出のみであったため、「I-131」及び「その他 $\alpha$ 線を放出する核種」は測定対象外であった。

（参考）その他 $\alpha$ 線を放出する核種及びその他 $\alpha$ 線を放出しない核種の核種ごとの放出量

（単位：Bq）

測定月	Pu( $\alpha$ )	Am( $\alpha$ )	Cm( $\alpha$ )	$^{241}\text{Pu}$	$^{60}\text{Co}$	$^{106}\text{Ru}$	$^{134}\text{Cs}$	$^{137}\text{Cs}$
4月	*	*	*	*	*	*	*	*
5月	*	*	*	*	*	*	*	*
6月	—	—	—	—	—	—	—	—
第1四半期	*	*	*	*	*	*	*	*

測定月	$^{154}\text{Eu}$	$^{144}\text{Ce}$	$^{90}\text{Sr}$	備考
4月	*	*	/	
5月	*	*		
6月	—	—		
第1四半期	*	*	*	

- ・低レベル廃液処理建屋からの放出を示す。
- ・ $^{90}\text{Sr}$ は、四半期ごとに測定している。
- ・「\*」は検出限界未満を示す。
- ・「—」は測定対象外を示す。

3. 再処理工場の気体廃棄物の放出量測定結果（令和3年4月～令和3年6月）

（単位：Bq）

測定月	<sup>85</sup> Kr	<sup>3</sup> H	<sup>14</sup> C	<sup>129</sup> I	<sup>131</sup> I	その他α線を放出する核種	その他α線を放出しない核種	備考
4月	*	5.3×10 <sup>9</sup> ( 1.6×10 <sup>9</sup> )	*	*	2.6×10 <sup>5</sup> ( 2.2×10 <sup>5</sup> )	*	*	
5月	*	4.9×10 <sup>9</sup> ( 2.6×10 <sup>9</sup> )	*	*	1.8×10 <sup>5</sup> ( 1.2×10 <sup>5</sup> )	*	*	
6月	*	4.8×10 <sup>9</sup> ( 2.9×10 <sup>9</sup> )	*	*	4.1×10 <sup>5</sup> ( 3.3×10 <sup>5</sup> )	*	*	
第1四半期	*	1.5×10 <sup>10</sup> ( 7.1×10 <sup>9</sup> )	*	*	8.5×10 <sup>5</sup> ( 6.7×10 <sup>5</sup> )	*	*	

- ・「その他α線を放出する核種」は全α、「その他α線を放出しない核種」は全β(γ)である。
- ・全α又は全β(γ)が検出限界以上の場合、当該試料について核種別に測定した結果を用いて算出している。  
( )内の数値は、測定結果が有意値となったときの検出限界濃度(Bq/cm<sup>3</sup>)に排気量(cm<sup>3</sup>)を乗じて算出した放射能(Bq)を足し合わせた量である。
- ・「\*」は検出限界未満を示す。

(参考)その他α線を放出する核種及びその他α線を放出しない核種の核種ごとの放出量（単位：Bq）

測定月	Pu(α)	<sup>106</sup> Ru	<sup>137</sup> Cs	<sup>90</sup> Sr	備考
4月	*	*	*	/	
5月	*	*	*		
6月	*	*	*		
第1四半期	*	*	*		*

- ・<sup>90</sup>Srは、四半期ごとに測定している。
- ・「\*」は検出限界未満を示す。

○放出量測定結果における検出限界濃度

(1) 液体廃棄物の検出限界濃度 (単位: Bq/cm<sup>3</sup>)

核 種	検出限界濃度
<sup>3</sup> H	2×10 <sup>-1</sup> 以下
<sup>129</sup> I	2×10 <sup>-3</sup> 以下
<sup>131</sup> I	2×10 <sup>-2</sup> 以下
全α	4×10 <sup>-3</sup> 以下
全β(γ)	4×10 <sup>-2</sup> 以下
Pu(α)	1×10 <sup>-3</sup> 以下
Am(α)	6×10 <sup>-5</sup> 以下
Cm(α)	6×10 <sup>-5</sup> 以下
<sup>241</sup> Pu	3×10 <sup>-2</sup> 以下
<sup>60</sup> Co	2×10 <sup>-2</sup> 以下
<sup>106</sup> Ru	2×10 <sup>-2</sup> 以下
<sup>134</sup> Cs	2×10 <sup>-2</sup> 以下
<sup>137</sup> Cs	2×10 <sup>-2</sup> 以下
<sup>154</sup> Eu	2×10 <sup>-2</sup> 以下
<sup>144</sup> Ce	2×10 <sup>-2</sup> 以下
<sup>90</sup> Sr	7×10 <sup>-4</sup> 以下

(2) 気体廃棄物の検出限界濃度 (単位: Bq/cm<sup>3</sup>)

核 種	検出限界濃度
<sup>85</sup> Kr	2×10 <sup>-2</sup> 以下
<sup>3</sup> H	4×10 <sup>-5</sup> 以下
<sup>14</sup> C	4×10 <sup>-5</sup> 以下
<sup>129</sup> I	4×10 <sup>-8</sup> 以下
<sup>131</sup> I	7×10 <sup>-9</sup> 以下
全α	4×10 <sup>-10</sup> 以下
全β(γ)	4×10 <sup>-9</sup> 以下
Pu(α)	4×10 <sup>-10</sup> 以下
<sup>106</sup> Ru	4×10 <sup>-9</sup> 以下
<sup>137</sup> Cs	4×10 <sup>-9</sup> 以下
<sup>90</sup> Sr	4×10 <sup>-10</sup> 以下



#### 4.気象観測結果(令和3年4月～令和3年6月)

##### ①風速

測定地点	測定月	風速(m/sec)		備考
		平均	最大	
地上10 m	4 月	3.9	11.4	
	5 月	3.6	12.1	
	6 月	3.1	6.6	
	第1四半期	3.6	12.1	
地上150 m	4 月	7.8	20.9	
	5 月	6.8	19.6	
	6 月	6.0	15.5	
	第1四半期	6.9	20.9	

- ・「地上気象観測指針(平成14年気象庁)」に基づく1時間値。
- ・地上10 m :風向風速計[超音波式](気象庁検定付)、連続測定(1時間値)
- ・地上150 m :ドップラーソーダ、連続測定(1時間値)

##### ②降水量

測定地点	測定月	降水量(mm)	備考
露場	4 月	101.0	
	5 月	98.5	
	6 月	53.5	
	第1四半期	253.0	

- ・「地上気象観測指針(平成14年 気象庁)」に基づく1時間値を用いて算出。
- ・雨雪量計[転倒ます型](気象庁検定付)

##### ③大気安定度

(単位:時間[括弧内は%])

測定地点	分類 測定月	A	A-B	B	B-C	C	C-D	D	E	F	G	計	備考
		露場	4 月	8 (1.1)	17 (2.4)	36 (5.0)	12 (1.7)	117 (16.3)	28 (3.9)	328 (45.6)	42 (5.8)	25 (3.5)	
5 月	4 (0.5)		23 (3.1)	33 (4.4)	16 (2.2)	117 (15.7)	37 (5.0)	381 (51.2)	42 (5.6)	31 (4.2)	60 (8.1)	744 (100)	
6 月	11 (1.5)		39 (5.4)	44 (6.1)	24 (3.3)	87 (12.1)	26 (3.6)	373 (51.8)	34 (4.7)	23 (3.2)	59 (8.2)	720 (100)	
第1四半期	23 (1.1)		79 (3.6)	113 (5.2)	52 (2.4)	321 (14.7)	91 (4.2)	1082 (49.5)	118 (5.4)	79 (3.6)	226 (10.3)	2184 (100)	

- ・「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針(平成13年3月 原子力安全委員会)」に基づく1時間値を用いて分類。
- ・風向風速計[超音波式](気象庁検定付)、日射計[電気式](気象庁検定付)、放射収支計[熱電対式]

大気安定度分類表

風速(U) m/s	日射量(T) kW/m <sup>2</sup>				放射収支量(Q) kW/m <sup>2</sup>		
	T ≥ 0.60	0.60 > T ≥ 0.30	0.30 > T ≥ 0.15	0.15 > T	Q ≥ -0.020	-0.02 > Q ≥ -0.040	-0.040 > Q
U < 2	A	A-B	B	D	D	G	G
2 ≤ U < 3	A-B	B	C	D	D	E	F
3 ≤ U < 4	B	B-C	C	D	D	D	E
4 ≤ U < 6	C	C-D	D	D	D	D	D
6 ≤ U	C	D	D	D	D	D	D

発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針(平成13年3月 原子力安全委員会)



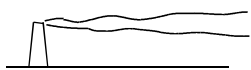
強不安定(A型)



並不安定(B型)



弱不安定(C型)



中立(D型)



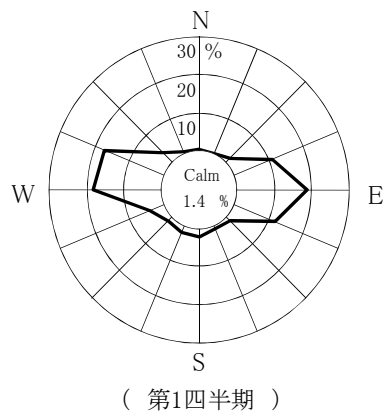
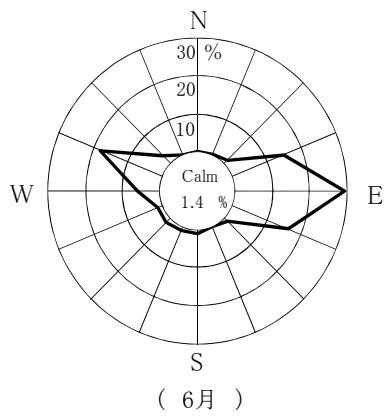
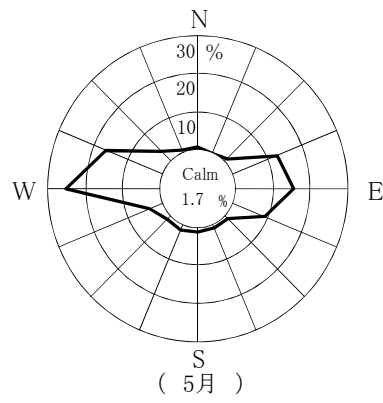
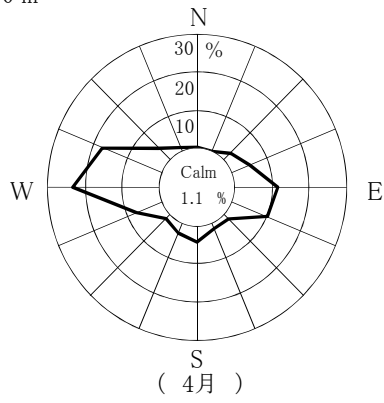
弱安定(E型)

並安定(F型)

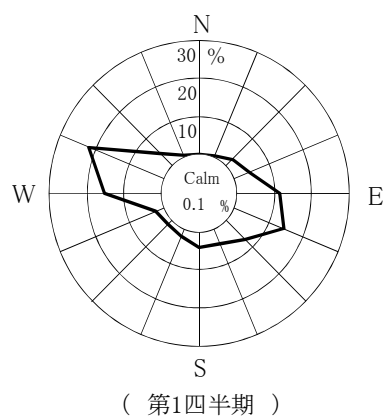
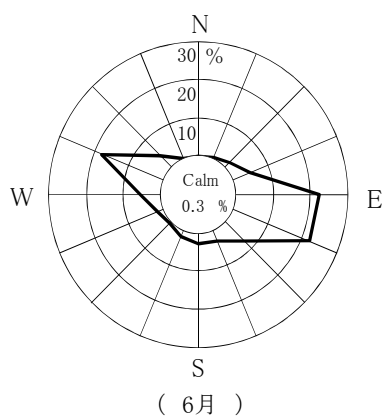
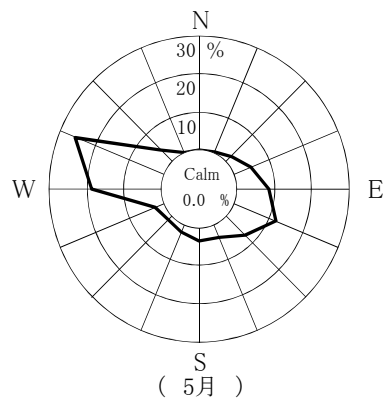
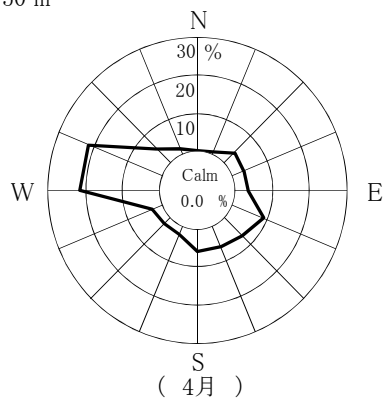
強安定(G型)

大気安定度と種の型との模式

④風向記図  
・地上10 m



・地上150 m



Calm: 風速0.4 m/sec以下

# 東通原子力発電所

## 1. モニタリングポスト測定結果

① 空間放射線量率

## 2. 排気筒モニタ測定結果

① 全ガンマ線計数率(希ガス)

## 3. 放水口モニタ測定結果

① 全ガンマ線計数率

## 4. 気象観測結果

① 風速

② 降水量

③ 大気安定度

④ 風配図

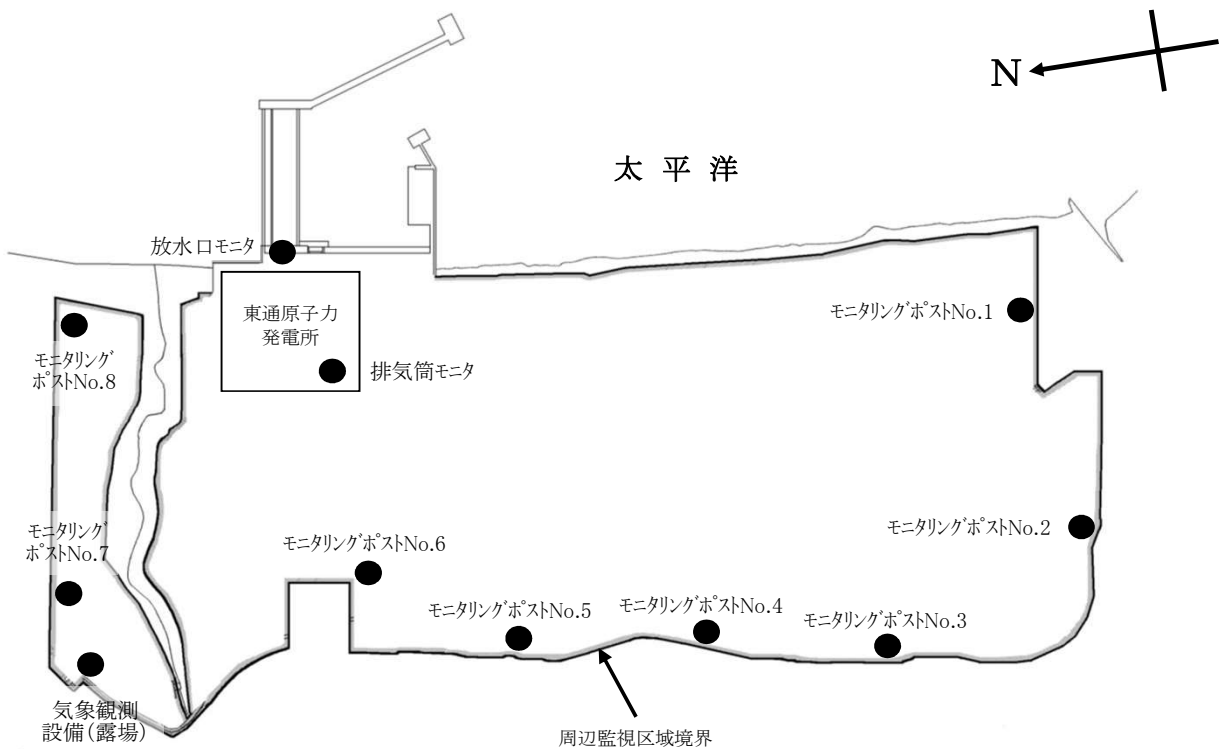


図 モニタリングポスト、排気筒モニタ、放水口モニタ及び気象観測設備配置図

## 1.モニタリングポスト測定結果

(令和3年4月～令和3年6月)

## ① 空間放射線量率

(単位:nGy/h)

測定地点	測定月	平均	最大	最小	過去 最大値	備考
No.1	4月	14	31	12	97	
	5月	14	37	12		
	6月	14	35	12		
	第1四半期	14	37	12		
No.2	4月	16	32	15	88	
	5月	16	40	15		
	6月	16	43	15		
	第1四半期	16	43	15		
No.3	4月	17	33	15	94	
	5月	16	41	14		
	6月	16	38	14		
	第1四半期	16	41	14		
No.4	4月	17	32	15	94	
	5月	17	42	15		
	6月	16	43	15		
	第1四半期	17	43	15		
No.5	4月	16	31	14	108	
	5月	16	41	14		
	6月	15	39	14		
	第1四半期	16	41	14		
No.6	4月	15	32	14	101	
	5月	15	39	13		
	6月	14	36	13		
	第1四半期	15	39	13		
No.7	4月	16	33	14	76	
	5月	16	40	14		
	6月	16	36	14		
	第1四半期	16	40	14		
No.8	4月	12	28	10	92	
	5月	12	34	10		
	6月	11	30	10		
	第1四半期	12	34	10		

・2"φ×2"NaI(Tl)シンチレーション検出器(温度補償型恒温装置付) G(E)関数荷重演算方式

・測定値は1時間値。

・局舎屋根(地上約4m)設置

・測定値は、3MeVを超える高エネルギー成分を含まない。

・「過去最大値」は、平成16～令和2年度の測定値の最大値。

2.排気筒モニタ測定結果 (令和3年4月～令和3年6月)

① 全ガンマ線計数率(希ガス)

(単位:  $s^{-1}$ )

測定地点	測定月	平均	最大	最小	過去最大値	備考
排気筒モニタ	4月	3.5	3.9	3.1	4.4	
	5月	3.5	3.9	3.2		
	6月	3.5	3.8	3.2		
	第1四半期	3.5	3.9	3.1		

- ・2"φ×2"Nal(Tl)シンチレーション検出器
- ・測定値は10分値。
- ・「過去最大値」は、平成16～令和2年度の測定値の最大値。

3.放水口モニタ測定結果 (令和3年4月～令和3年6月)

① 全ガンマ線計数率

(単位:  $min^{-1}$ )

測定地点	測定月	平均	最大	最小	過去最大値	備考
放水口モニタ	4月	190	220	170	340	
	5月	190	460	170		
	6月	190	230	170		
	第1四半期	190	460	170		

- ・2"φ×2"Nal(Tl)シンチレーション検出器(温度補償型)
- ・測定値は10分値。
- ・「過去最大値」は、平成16～令和2年度の測定値の最大値。

4. 気象観測結果 (令和3年4月～令和3年6月)

① 風速

測定高さ	測定月	風速 (m/sec)		備考
		平均	最大	
地上10 m	4月	2.2	7.7	
	5月	1.9	7.2	
	6月	1.6	7.2	
	第1四半期	1.9	7.7	
地上100 m	4月	5.2	14.1	
	5月	4.6	15.6	
	6月	3.8	13.4	
	第1四半期	4.5	15.6	

- ・「地上気象観測指針(平成14年 気象庁)」に基づく1時間値。
- ・地上 10 m: 風向風速計[プロペラ型](気象庁検定付)
- ・地上100 m: ドップラーソーダ

② 降水量

測定地点	測定月	降水量(mm)	備考
露 場	4月	132.5	
	5月	116.5	
	6月	109.0	
	第1四半期	358.0	

- ・「地上気象観測指針(平成14年 気象庁)」に基づく1時間値を用いて算出。
- ・雨雪量計[転倒升方式](気象庁検定付)

③ 大気安定度

(単位: 時間[括弧内は%])

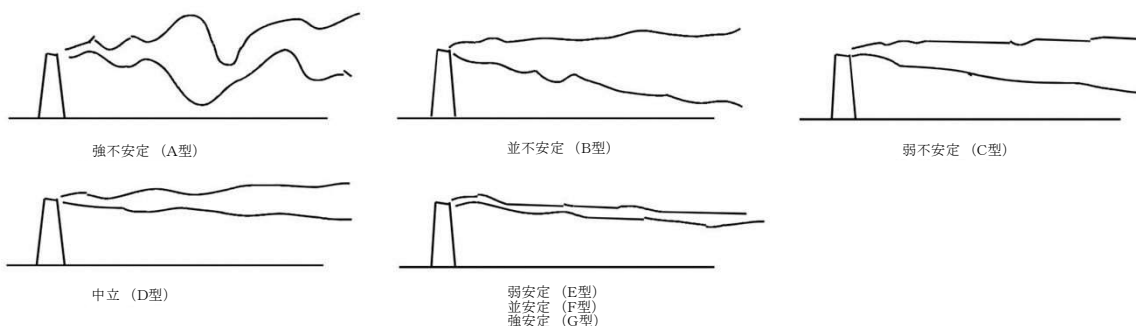
測定地点	分類 測定月	A	A-B	B	B-C	C	C-D	D	E	F	G	計	備考
		露 場	4月	11 (1.5)	68 (9.4)	99 (13.8)	22 (3.1)	55 (7.6)	11 (1.5)	231 (32.1)	25 (3.5)	37 (5.1)	
5月	30 (4.0)		71 (9.5)	80 (10.8)	13 (1.7)	51 (6.9)	11 (1.5)	320 (43.0)	30 (4.0)	22 (3.0)	116 (15.6)	744 (100)	
6月	44 (6.2)		86 (12.1)	62 (8.7)	3 (0.4)	26 (3.7)	5 (0.7)	377 (52.9)	9 (1.3)	9 (1.3)	91 (12.8)	712 (100)	
第1 四半期	85 (3.9)		225 (10.3)	241 (11.1)	38 (1.7)	132 (6.1)	27 (1.2)	928 (42.6)	64 (2.9)	68 (3.1)	368 (16.9)	2176 (100)	

- ・「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針(平成13年3月 原子力安全委員会)」に基づく1時間値を用いて分類。
- ・風向風速計[プロペラ型](気象庁検定付)、日射計[電気式](気象庁検定付)、放射収支計[風防型]

大気安定度分類表

風速(U) m/s	日射量(T) kW/m <sup>2</sup>				放射収支量(Q) kW/m <sup>2</sup>		
	T ≥ 0.60	0.60 > T ≥ 0.30	0.30 > T ≥ 0.15	0.15 > T	Q ≥ -0.020	-0.020 > Q ≥ -0.040	-0.040 > Q
2 ≦ U < 3	A	A-B	B	D	D	G	G
3 ≦ U < 4	A-B	B	C	D	D	E	F
4 ≦ U < 6	B	B-C	C	D	D	D	E
6 ≦ U	C	C-D	D	D	D	D	D

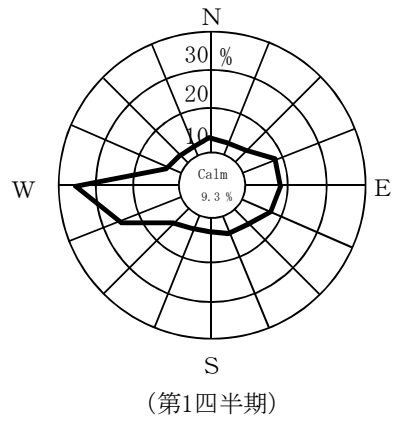
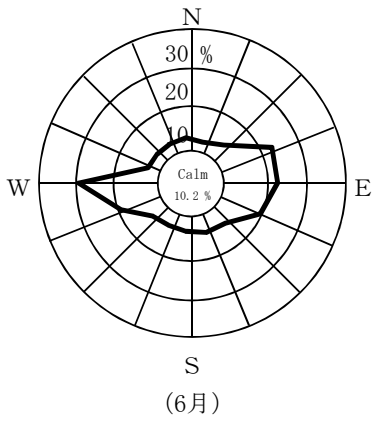
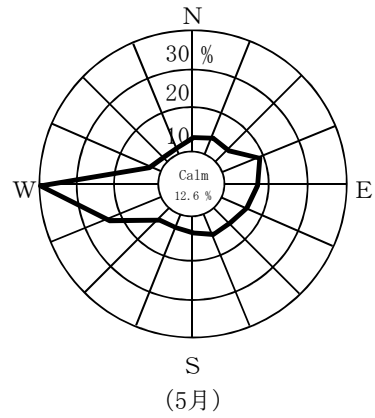
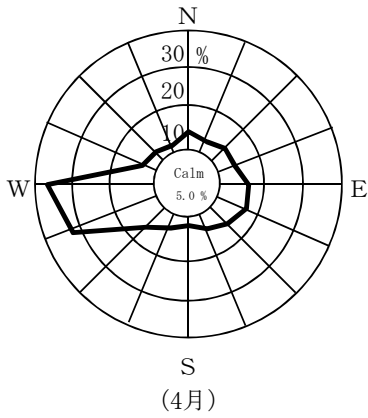
発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針 (平成13年3月 原子力安全委員会)



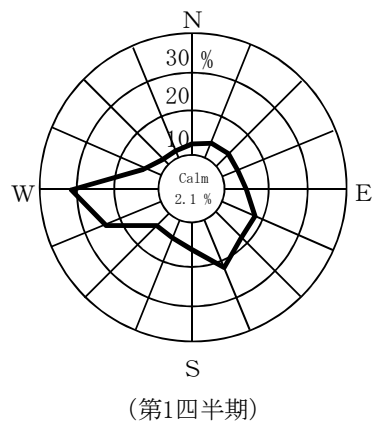
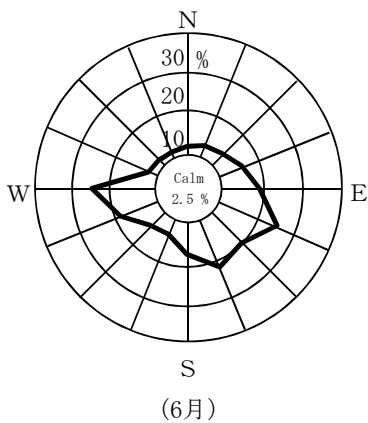
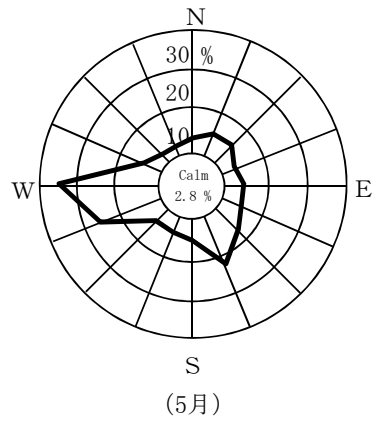
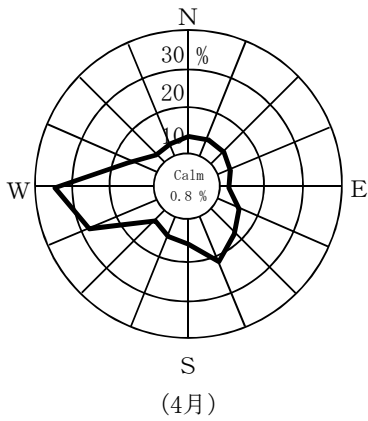
大気安定度と煙の型との模式

④ 風配図

・地上 10 m



・地上100 m



Calm: 風速0.4 m/sec以下